令和６年１０月３１日

気象解説情報形式のＸＭＬフォーマット解説

気象情報解説情報（形式）XML の構造は気象庁防災情報 XML フォーマットに従います。本解説の内容は今後の運用の変更に伴って変わる可能性があります。

本資料中で用いる用語について

・「前回電文」とは、参照中の電文（当該電文）と、情報名称（Control/Title）、運用種別（Control/Status）、発信官署（Control/EditorialOffice）及び識別情報（Head/EventID）が同一である電文の中で、発表時刻（Head/ReportDateTime）が当該電文の直近過去である電文を指す。

・本資料中で参照しているコードに関する表番号は、気象庁防災情報ＸＭＬフォーマット辞書・コード管理表中の番号である。

・「府県予報区等」は、次の場合を除き、府県予報区を指す。

　・北海道（宗谷地方、及び網走・北見・紋別地方を除く）については、一次細分区域を用いる。

　・鹿児島県については、「鹿児島県（奄美地方除く）」又は「奄美地方」を用いる。

・「一次細分区域等」は、原則として一次細分区域を指す。

・「市町村等をまとめた地域等」は、原則として市町村等をまとめた地域を指す。ただし、市町村等をまとめた地域の設定がない場合には、一次細分区域を指す。

・「気象警報・注意報」は、気象特別警報、気象危険警報、気象警報及び気象注意報をまとめて指す。

気象解説情報形式の全体構成

気象情報解説形式は、以下の電文により構成される。

電文の名称	データ種類コード（TTAAii）	Control/Title
気象防災速報	VPBS50	″府県気象防災速報″
気象防災速報（潮位）	VPBS51	″府県気象防災速報（潮位）″
全般気象解説情報	VPZJ51	″全般気象解説情報″
地方気象解説情報	VPCJ51	″地方気象解説情報″
府県気象解説情報	VPFJ51	″府県気象解説情報″
全般気象解説情報（潮位）	VMCJ53	″全般気象解説情報（潮位）″
地方気象解説情報（潮位）	VMCJ54	″地方気象解説情報（潮位）″
府県気象解説情報（潮位）	VMCJ55	″府県気象解説情報（潮位）″

上記以外の気象防災速報及び気象解説情報については、電文形式としては気象解説情報形式としない。

気象解説情報形式は、電文の名称・データ種類コードにより種別や運用を分けられているが、データの処理方法としての一貫性は保つものとする。

本資料は、以下の構成で解説する。

１章　気象解説情報形式の電文構造

２章　気象解説情報形式の電文運用

第１章　気象解説情報形式の構造解説

１．Control 部

```
<Control>
  <Title>府県気象解説情報</Title>
  <DateTime>2023-09-07T08:03:41Z</DateTime>
  <Status>通常</Status>
  <EditorialOffice>気象庁本庁</EditorialOffice>
  <PublishingOffice>気象庁</PublishingOffice>
</Control>
```

１－１　Title

電文の種別を示すための情報名称。

［解説］　“府県気象防災速報”、“府県気象解説情報”等を記載する。具体的な値は別表１のとおり

１－２　DateTime

発信時刻。

［解説］　年月日時分秒を UTC 表記の dateTime 型で記載する。

１－３　Status

運用種別。

［解説］　“通常”、“訓練”、“試験”のいずれかを記載。

１－４　EditorialOffice

編集官署名。

［解説］　実際に発表作業を行った官署名を示す。

１－５　PublishingOffice

発表官署名。

［解説］　業務的に発表した官署名を示す。

２．Head 部

```
<Head xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/informationBasis1/">
  <Title>東京都気象解説情報（台風第１３号）</Title>
  <ReportDateTime>2023-09-07T17:03:00+09:00</ReportDateTime>
  <TargetDateTime>2023-09-07T17:03:00+09:00</TargetDateTime>
  <EventID>JPTK230120</EventID>
  <InfoType>発表</InfoType>
  <Serial>7</Serial>
  <InfoKind>気象解説情報</InfoKind>
  <InfoKindVersion>1.5_0</InfoKindVersion>
```

２－１　Title

情報の標題

［解説］　電文の情報報種別名に続いて内容の概要を続けて記載する。

２－２　ReportDateTime

発表時刻

［解説］１　発表時刻を JST 表記の dateTime 型で表記する。時刻は分単位で、秒は常に“00”。

２　情報形態が“訂正”となる訂正発表の際は訂正元の発表時刻を更新しない。

２－３　TargetDateTime

基点時刻

［解説］　発表時刻に同じ。

２－４　EventID

識別情報

［解説］１　一連の気象現象や台風など（以下「一連の現象」という。）に対し、１つの固定した ID 情報を付加する。それぞれの気象現象や台風に対してはユニークな ID 情報となる。

２　同一種別（Control/Title）、同一編集官署（Control/EditorialOffice）で、同一の EventID の情報が発表された場合は、一連の現象に対する情報内容が、発表時刻が最新のものに更新されたことを示す。

３　一連の現象を示しているユニークな ID 文字列に、アンダーバー“_”に続けてさらに英数字による ID 文字列が続く場合（例：“JPTK230120_20230907170300”）、アンダーバー以降の英数字を一連の現象に対する枝番 ID とする。枝番 ID が付与された情報は、一連の現象における速報的又は一時的な解説や情報提供を行うものとして、一連の現象に関する情報（枝番 ID が付与されていない情報）に対する補足的、追加的な役割を担う。この場合、一連の現象に関する情報内容を更新するものとは扱わない。また、別の枝番 ID 間でも情報内容を更新するものとは扱わない。このことは、個々の EventID 文字列そのものが異なることから、前項の内容と矛盾するものではない。

２－５　InfoType

情報形態

［解説］　“発表”、“訂正”、“取消”のいずれかを記載。

２－６　Serial

情報番号

［解説］１　一連の現象に対して必要に応じ情報番号を付加する。

２　原則として、枝番 ID が付与される情報も通じて一連の現象として情報番号を振るものとする。

２－７　InfoKind 及び InfoKindVersion

スキーマの運用種別情報（InfoKind）、及びスキーマの運用種別情報のバージョン番号（InfoKindVersion）

［解説］１　InfoKind は、“気象解説情報”で固定。

２　InfoKindVersion には、バージョン番号を文字列で記載する。

２－８　Headline 部

```
<Headline>
  <Text>伊豆諸島では７日夜から８日午前中にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性があります。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒してください。東京地方でも８日は、土砂災害に厳重に警戒し、低い土地や地下施設への浸水、河川の増水や氾濫に警戒してください。</Text>
```

```
</Headline>
<Information type="情報タグ">
        (略)
```

２－８－１　Text

見出し文

［解説］１　見出し文を記述する。

２　気象防災速報及び気象解説情報のいわゆる短文形式の場合、本情報内で唯一の文章による記述形式となる。

２－８－２　Information 部

［解説]］１　属性 type により分類され、繰り返し出現する。属性 type が同一のものが複数回出現することはない。

２　属性 type のとりうる値は現時点で“情報タグ”のみとする。

２－８－２－１　Information[@type="情報タグ"]部

本情報が対象とする気象現象や台風、熱帯低気圧等について、その「キーワード」を情報タグとして列記して記載する。

```
<Information type="情報タグ">
  <Item>
    <Kind>
      <Name>情報タグ</Name>
      <Condition>台風 大雨 雷 突風 強風 高波</Condition>
    </Kind>
    <Kind>
      <Name>台風番号</Name>
      <Condition>T2313</Condition>
    </Kind>
    <Kind>
      <Name>TC番号</Name>
      <Condition>TC2315</Condition>
    </Kind>
    <Areas codeType="気象情報／府県予報区・細分区域等">
      <Area>
        <Name>東京地方</Name>
        <Code>130010</Code>
      </Area>
      <Area>
        <Name>伊豆諸島北部</Name>
        <Code>130020</Code>
     </Area>
     <Area>
       <Name>伊豆諸島南部</Name>
       <Code>130030</Code>
     </Area>
    </Areas>
  </Item>
</Information>
```

２－８－２－１－１　Item 部

情報タグの種別（Kind 部）及び府県予報区等（Areas 部）を記載する。

［解説］　原則として、種別（Control/Title)、編集官署（Control/EditorialOffice）が対象としている情報種別と発表対象区域において、概要として情報内容を絞り込むこととし、キーワードを地域個別に割り振る運用はしない。このため、当面 Item 部は１つのみとする。

２－８－２－１－１－１　Kind 部

情報タグを分類する種別名(Name)とその状況（Condition）を記載する。

［解説］１　Kind 部の種別名（Name）は、全体のキーワードを示す“情報タグ”を必須とし、台風に関する情報の際は“台風番号”を、熱帯低気圧（台風を含む）に関する情報の際は“TC 番号”をとる。

２　状況（Condition）は、情報内容について種別名に応じた値（キーワード）を記載する。複数ある場合

は、list 型（空白区切り）で列挙する。文字数制限により一部値を省略する場合がある。

３　種別名が“情報タグ”の際の状況（Condition）のとりうる値（キーワード）は、別表２参照。

４　一連の現象が台風に関連する場合、種別名（Name）を“台風番号”とする Kind 部をとり、Condition に、台風番号 4 桁の数字に“T”の接頭辞を付けて記述する。複数ある場合は、list 型（空白区切り）で列挙する。対象となる情報タグは別表２参照。

５　一連の現象が熱帯低気圧（台風を含む）に関連する場合、種別名（Name）を“TC 番号”とする Kind 部をとり、Condition に、TC 番号 4 桁の数字に“TC”の接頭辞を付けて記述する。複数ある場合は、list 型（空白区切り）で列挙する。対象となる情報タグは別表２参照。

６　情報タグのとりうる値（キーワード）の別表２について、今後も運用の変更等により、予告の上で追加を予定していることから、利用にあたっては任意のタイミングでの追加に対応できるようにシステム設計すること。設定やシステム改修が間に合わないとき等でシステムが想定しえない値として受信する場合でも、気象解説情報に関する処理として異常な処理とならないように設計すること。

２－８－２－１－１－２　Areas 部

Kind 部で内容を述べた対象となる区域の名称(Area/Name)、コード(Area/Code)を記載する。

［解説］１　Item 以下に Areas 部は 1 回だけ出現する。Areas 以下の Area 部は対象となる区域の数だけ出現する。

２　Areas の属性 codeType に記載されるコード種別名は“気象情報／府県予報区・細分区域等”又は“全国・地方予報区等”固定。

３　情報の種別と対象となる区域の種別の関係は別表３のとおり。

４　各区域の名称と対応するコードは code.AreaForecastLocalM 又は code.AreaForecast（表 1.5.3.2、詳細は別途提示）。

５　通常の気象解説情報等の運用において、情報の内容に対して最小限の地域となるような地域の絞り込みは原則行わない。例えば、波浪に関する情報において、内陸の細分区を除外するような運用は原則として行わない。ただし、一部の気象防災速報では適切に絞り込みを行う場合がある。

３．Body 部

気象解説情報の本文部又は予報・観測情報について諸要素を記載する。

```
<Body xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/body/meteorology1/"
      xmlns:jmx_eb="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/elementBasis1/">
  <MeteorologicalInfos type="概況">
    <MeteorologicalInfo>
       (略)
    </MeteorologicalInfo>
  </MeteorologicalInfos>
  <MeteorologicalInfos type="観測実況">
    <TimeSeriesInfo>
       (略)
    </TimeSeriesInfo>
    <TimeSeriesInfo>
       (略)
    </TimeSeriesInfo>
  </MeteorologicalInfos>
       (略)
</Body>
```

［解説］１　気象解説情報形式の本文部に関して、その情報構造に従い単体又は複数の MeteorologicalInfos 部を組み合わせて情報を表現する。

２　気象防災速報においては、原則として、見出し文の内容をデータ構造化した内容のみとし、文章として再構成することを想定していない。

３　文章による情報部分についても、当該部分の分類情報等を付加した MeteorologicalInfos 部として構造整理することとし、Comment 部による文章提供は行わない。

４　一部を除き、電文種別及び情報タグのキーワードによって、MeteorologicalInfos 部の組み合わせ等が一意に定まっているが、今後も構造の固定運用を保証するものではない。

３－１　MeteorologicalInfos 部

本文部の情報構造に沿って予報・観測情報（MeteorologicalInfo 部）又は時系列情報（TimeSeriesInfo 部）を記載する。

```
<MeteorologicalInfos type="概況">
  <MeteorologicalInfo>
       (略)
<MeteorologicalInfos type="観測実況">
  <TimeSeriesInfo>
       (略)
<MeteorologicalInfos type="予想">
  <TimeSeriesInfo>
       (略)
<MeteorologicalInfos type="防災事項">
  <MeteorologicalInfo>
       (略)
<MeteorologicalInfos type="付加情報">
  <MeteorologicalInfo>
       (略)
```

［解説］１　属性 type の値は“概況”、“観測実況”、“予想”、“防災事項”、“付加情報”のいずれか。

２　原則として、同じ属性 type の値をとる MeteorologicalInfos 要素は複数出現しないが、MeteorologicalInfo 部と TimeSeriesInfo 部が交互に出現する場合には連続して同じ属性の MeteorologicalInfos 部が出現する。

３－１－１　MeteorologicalInfo 部

文章情報又は観測実況の場合に観測・予報情報として内容(Item 部)を記載する。

```
〔文章情報の場合〕
<MeteorologicalInfos type="付加情報">
  <MeteorologicalInfo>
    <DateTime>2023-09-07T17:03:00+09:00</DateTime>
    <Item>
      <Kind>
        <Property>
          <Type>補足事項</Type>
          <Text type="本文">　今後発表する防災気象情報に留意してください。　　また、土砂災害や浸水害
           及び洪水害の危険度に関しては「気象庁ホームページ」のキキクル（危険度分布）をご確認くださ
```

```
            い。　次の「台風第１３号に関する東京都気象情報」は、８日６時頃に発表する予定です。
            </Text>
          </Property>
        </Kind>
      </Item>
    </MeteorologicalInfo>
  </MeteorologicalInfos>

  〔観測等の実況の場合〕
  <MeteorologicalInfos type="観測実況">
    <MeteorologicalInfo>
      <DateTime>2023-09-08T07:07:00+09:00</DateTime>
      <Item>
        <Kind>
          <Property>
            <Type>雨の実況</Type>
            <PrecipitationPart>
              （略）
```


［解説］１　文章情報の形式（以下「文章形式」という。）として、MeteorologicalInfos 部の属性 type が“概況”、“防災事項”、“付加情報”の際に本要素をとる。

２　観測実況値の提供形式（以下「観測実況形式」という。）として、MeteorologicalInfos 部の属性 type が“観測実況”の際に本要素をとる場合がある。

３　気象防災速報における観測等の状況を示すデータ形式（以下「観測データ形式」という。）として、MeteorologicalInfos 部の属性 type が“観測実況”の際に本要素をとる場合がある。

３－１－１－１　DateTime

基点時刻

［解説］　発表時刻に同じ。

３－１－１－２　Item 部

文章情報又は観測等の実況の内容(Kind 部)と、対象地域(Area 部)又は対象観測所（Station 部）を記載する。


```
〔文章情報の場合〕
 <Item>
   <Kind>
     <Property>
     <Type>補足事項</Type>
       <Text type="本文">　今後発表する防災気象情報に留意してください。　また、土砂災害や浸水害及び洪水害の危険度に関しては「気象庁ホームページ」のキキクル（危険度分布）をご確認ください。
       次の「台風第１３号に関する東京都気象情報」は、８日６時頃に発表する予定です。</Text>
     </Property>
   </Kind>
 <Item>

〔観測実況形式の場合〕
 <Item>
   <Kind>
     <Property>
       <Type>雨の実況</Type>
       <Text type="解説"/>
          （略）
     </Property>
   </Kind>
 </Item>
 <Item>
   <Kind>
     <Property>
       <Type>雨の実況</Type>
       <PrecipitationPart>
          （略）
       </PrecipitationPart>
     </Property>
   </Kind>
   <Station>
     <Name>三宅島</Name>
     <Code type="アメダス地点番号">44226</Code>
```

```
      <Location>東京都</Location>
    </Station>
   </Item>
     (略)
  <Item>
    <Kind>
      <Property>
        <Type>雨の実況</Type>
        <Text  type="補足"/>
           (略)
      </Property>
    </Kind>
  </Item>

 〔観測データ形式の場合〕
  <Item>
    <Kind>
      <Property>
        <Type>雨の実況</Type>
        <PrecipitationPart>
           (略)
        </PrecipitationPart>
      </Property>
    <Kind>
    <Area codeType="気象・地震・火山情報／市町村等">
      <Name>三宅村</Name>
      <Code>1338100</Code>
      <Status>付近</Status>
    </Area>
  <Item>
```

［解説］１　文章形式の場合は１回のみ、観測実況形式の場合は対象となる地域または観測所の個数＋２回、観測データ形式の場合は対象となる地域または観測所の個数だけ繰り返す。

２　文章形式の場合は、内容のみとし、対象地域及び対象観測所をとらない。

３　観測実況形式の場合、MeteorologicalInfo 部の最初の Item 部を当該気象要素に係る解説のための文章（Text）とし、２番目以降の Item 部を当該気象要素、最後の Item 部を当該気象要素に係る補足のための文章（Text）とする。この場合、最初と最後の Item 部は対象地域及び対象観測所をとらない。

３－１－１－２－１　Kind 部

文章情報又は観測等の実況の値(Property 部)を記載する。

３－１－１－２－１－１　Property 部

文章情報・気象要素の種類（Type)、文章（Text)、観測等の実況値等(PrecipitationPart 部等)を記載する。

［解説］１　Property 部は Kind 以下に１回以上出現し、各 Property 部に記載する内容は、MeteorologicalInfos 部の属性 type、気象要素の種類（./Type）に依存する。出現する Property/Type の内容及び組み合わせは、別表４のとおり。

３－１－１－２－１－１－１　Type

気象要素の種類を記載する。

［解説］１　情報中の中分類として値を表示に用いることもできる。

２　他の関連要素と記載する気象要素の種類の対応は別表４のとおり。

３－１－１－２－１－１－２　Text 部

文章情報、又は観測実況形式の解説及び補足の文章を記載する。

```
 〔文章形式の場合〕
  <Property>
    <Type>補足事項</Type>
     <Text type="本文">  今後発表する防災気象情報に留意してください。　　また、土砂災害や浸水害及び洪水害の危険度に関しては「気象庁ホームページ」のキキクル（危険度分布）をご確認ください。　　次の「台風第１３号に関する東京都気象情報」は、８日６時頃に発表する予定です。</Text>
  </Property>

 〔観測実況形式の場合で解説部分〕
```

```
<Property>
<Type>雨の実況</Type>
   <Text type="解説"/>
   <Text type="気象要素">降水量（アメダスによる速報値）</Text>
</Property>

〔観測実況形式の場合で補足部分〕
<Property>
   <Type>雨の実況</Type>
   <Text type="補足"/>
</Property>

〔観測実況形式で、その他の実況を提供する場合〕
<Property>
   <Type>その他の実況</Type>
   <Text type="本文">文章形式でその他の気象現象をお知らせする文章</Text>
</Property>
```

［解説］１　文章形式の場合、原則として属性 type を“本文”とした文章（Text）を１回とるが、繰り返す場合がある。

２　観測実況形式の場合、MeteorologicalInfo 部の最初の Item 部を当該気象要素に係る解説のための文章（Text）として文章（Text）の属性 type を“解説”、“気象要素”としたものとする。同様に２番目以降の Item 部を当該気象要素とし、最後の Item 部を当該気象要素に係る補足のための文章（Text）として文章（Text）の属性 type を“補足”としたものする。この場合、本 Text 部の親要素となる気象要素の種類（Type）については、対象とする気象要素の種類と同じ（対象気象要素の要素 Type 値が“雨の実況”ならば、本要素 Text の親要素 Type 値も“雨の実況”となる）とする。

３　属性 type が“解説”の場合、当該気象要素の内容に対する個別の解説を記載する。属性 type が“気象要素”の場合、個別気象要素に対する情報見出しを記載する。属性 type が“補足”の場合、当該気象要素の内容に対する個別の補足を記載する。

４　観測実況形式の場合、解説及び補足のための文章（Text）を含む Item 部は、対象地域（Area）及び対象観測所（Station）をとらない。

５　観測実況形式で気象要素の種類（Type）の値が“その他の実況”となる文章（Text）については、その気象の実況を文章形式で属性 type を“本文”として記載する。

６　観測データ形式の場合は、解説及び補足のための Text 部をとらない。

３－１－１－２－１－１－３　PrecipitationPart 部

雨量について諸要素を記載する。

```
〔観測データ形式で、雨量が地域の場合〕
<Item>
  <Kind>
    <Property>
      <Type>雨の実況</Type>
      <PrecipitationPart>
        <jmx_eb:Precipitation description="１２０ミリ以上" type="前１時間解析雨量"
         unit="mm"  condition="以上">120</jmx_eb:Precipitation>
        <Time>2023-09-08T07:00:00+09:00</Time>
      </PrecipitationPart>
    </Property>
  <Kind>
  <Area codeType="気象・地震・火山情報／市町村等">
    <Name>三宅村</Name>
    <Code>1338100</Code>
    <Status>付近</Status>
  </Area>
<Item>

〔観測実況形式で、雨量が観測所の場合〕
<Item>
  <Kind>
    <Property>
      <Type>雨の実況</Type>
      <PrecipitationPart>
        <Sentence>５２ミリ　７日１６時００分　※</Sentence>
        <jmx_eb:Precipitation description="５２ミリ" type="前１時間降水量" unit="mm"
```

```
          >52</jmx_eb:Precipitation>
          <Time>2023-09-07T16:00:00+09:00</Time>
          <Remark>観測史上１位</Remark>
        </PrecipitationPart>
      </Property>
    <Kind>
    <Station>
      <Name>三宅島</Name>
      <Code type="アメダス地点番号">44226</Code>
      <Location>東京都</Location>
    </Station>
  <Item>
```


［解説］１　雨量（Precipitaition）の属性 type は種類を表し、“前１時間降水量”、“前２４時間降水量”、“前４８時間降水量”、“前７２時間降水量”、“前１時間解析雨量”等を記載する。異なる属性 type の値を出現させる場合は、それぞれ個別の MeteorologicalInfo 部で記載する。属性 unit は“mm”の固定。属性 condition は“約”、“以上”をとる場合がある。属性 description に雨量の文字列表現を記載する。

２　地域を分けて雨量を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と雨量（Precipitation）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

３　文章表現（Sentence）は、観測実況形式の場合に、PrecipitationPart 部を文章で記載する。

４　時間（Time）は、事象の発現時刻又は解析時刻を記載する。

５　特記事項として、“観測史上１位”、“欠測あり”の状況がある場合、注意事項・付加事項（Remark）に記載する。複数ある場合は、list 型（空白区切り）で列挙する。ない場合は要素ごと省略する。

６　観測実況形式で観測の内容（Item）下の地域・地点を示す要素として、雨量が観測所の場合は地点（Station）、地域の場合は地域（Area）をとる。地点の場合、コードの種類（属性 type）として、“アメダス地点番号”、“他機関観測地点番号”をとる。地域の場合は、“気象・地震・火山情報／市町村等”をとり二次細分区コードを使用する。

３－１－１－２－１－１－４　SnowfallDepthPart 部

降雪量について諸要素を記載する。

〔観測データ形式の場合〕

```
    <Property>
      <Type>雪の実況</Type>
      <SnowfallDepthPart>
        <jmx_eb:SnowfallDepth type="６時間の降雪深さ" unit="cm" description="４０センチ">40</jmx_eb:SnowfallDepth>
        <Time>2023-09-08T07:00:00+09:00</Time>
      </SnowfallDepthPart>
    </Property>
```

〔観測実況形式の場合〕

```
    <Property>
      <Type>雪の実況</Type>
      <SnowfallDepthPart>
        <Sentence>４０センチ　８日０７時００分　※</Sentence>
        <jmx_eb:SnowfallDepth type="６時間の降雪深さ" unit="cm" description="４０センチ">40</jmx_eb:SnowfallDepth>
        <Time>2023-09-08T07:00:00+09:00</Time>
        <Remark>観測史上１位</Remark>
      </SnowfallDepthPart>
    </Property>
```


［解説］１　降雪量（SnowfallDepth）の属性 type は種類を表し、“３時間の降雪深さ”、“６時間の降雪深さ”、“１２時間の降雪深さ”、“２４時間の降雪深さ”、“４８時間の降雪深さ”、“７２時間の降雪深さ”等を記載する。複数の属性 type の値を出現させる場合は、それぞれ個別の MeteorologicalInfo 部で記載する。属性 unit は“cm”の固定。属性 condition は“約”、“以上”をとる場合がある。属性 description に降雪量の文字列表現を記載する。

２　地域を分けて降雪量を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と降雪量（SnowfallDepth）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

３　文章表現（Sentence）は、観測実況形式の場合に、SnowfallDepthPart 部を文章で記載する。

４　時間（Time）は、事象の発現時刻又は解析時刻を記載する。

５　特記事項として、“観測史上１位”、“欠測あり”の状況がある場合、注意事項・付加事項（Remark）に記載する。複数ある場合は、list 型（空白区切り）で列挙する。ない場合は要素ごと省略する。

６　観測の内容（Item）下の地域・地点を示す要素として、降雪量が観測所の場合は地点（Station）、地域の場合は地域（Area）をとる。地点の場合、コードの種類（属性 type）として、“アメダス地点番号”、“他機関観測地点番号”をとる。地域の場合は、“気象・地震・火山情報／市町村等”をとり二次細分区コードを使用する。

３－１－１－２－１－１－５　SnowDepthPart 部

積雪について諸要素を記載する。

```
〔観測データ形式の場合〕
    <Property>
      <Type>雪の実況</Type>
      <SnowDepthPart>
        <jmx_eb:SnowDepth type="積雪深" unit="cm" description="１００センチ">100</jmx_eb:SnowfallDepth>
        <Time>2023-09-08T07:00:00+09:00</Time>
      </SnowDepthPart>
    </Property>

〔観測実況形式の場合〕
    <Property>
      <Type>雪の実況</Type>
      <SnowfallDepthPart>
        <Sentence>１００センチ　８日０７時００分　※</Sentence>
        <jmx_eb:SnowDepth type="積雪深" unit="cm" description="１００センチ">100</jmx_eb:SnowfallDepth>
        <Time>2023-09-08T07:00:00+09:00</Time>
        <Remark>観測史上１位</Remark>
      </SnowfallDepthPart>
    </Property>
```

［解説］１　積雪の深さ（SnowDepth）の属性 type は種類を表し、“積雪深”等を記載する。複数の属性 type の値を出現させる場合は、それぞれ個別の MeteorologicalInfo 部で記載する。属性 condition は“約”、“以上”をとる場合がある。属性 unit は“cm”の固定。属性 description に積雪の深さの文字列表現を記載する。

２　地域を分けて積雪の深さを記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と積雪の深さ（SnowDepth）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

３　文章表現（Sentence）は、観測実況形式の場合に、SnowDepthPart 部を文章で記載する。

４　時間（Time）は、事象の発現時刻又は解析時刻を記載する。

５　特記事項として、“観測史上１位”、“欠測あり”の状況がある場合、注意事項・付加事項（Remark）に記載する。複数ある場合は、list 型（空白区切り）で列挙する。ない場合は要素ごと省略する。

６　観測の内容（Item）下の地域・地点を示す要素として、積雪の深さが観測所の場合は地点（Station）、地域の場合は地域（Area）をとる。地点の場合、コードの種類（属性 type）として、“アメダス地点番号”、“他機関観測地点番号”をとる。地域の場合は、“気象・地震・火山情報／市町村等”をとり二次細分区コードを使用する。

３－１－１－２－１－１－６　WindPart 部

風向風速の時系列について諸要素を記載する。

```
〔観測データ形式の場合〕
    <Property>
      <Type>風の実況</Type>
      <WindPart>
        <jmx_eb:WindDirection type="風向" unit="１６方位漢字" description="西の風">西</jmx_eb:WindDirection>
        <jmx_eb:WindSpeed type="風速" unit="m/s" description="１２メートル">12</jmx_eb:WindSpeed>
        <Time>2023-09-08T07:00:00+09:00</Time>
      </WindPart>
    </Property>
```

［解説］１　風について、風向（WindDirection）と風速(WindSpeed)を記載する。複数の属性 type の値の組み合わせを出現させる場合は、それぞれ個別の MeteorologicalInfo 部で記載する。

２　風向（WindDirection）については、１６方位の漢字表現を用いる。属性 type は“風向”、属性 unit は“１６方位漢字”の固定。属性 condition は“値なし”を記載することがある。属性 description に風向の文字列表現を記載する。

３　風速(WindSpeed)には風速を記載する。属性 type は“風速”、属性 unit は“m/s”の固定。属性 condition は“値なし”を記載することがある。属性 description に風速の文字列表現を記載する。
４　時間（Time）は、事象の発現時刻を記載する。
５　観測の内容（Item）下の地域・地点を示す要素として、地点（Station）をとる。コードの種類（属性 type）として、“アメダス地点番号”をとる。

３－１－１－２－１－１－７　EventPart 部

発生した気象現象に関する諸要素を記載する。

```
〔観測データ形式の場合〕
  <Propperty>
    <Type>気象現象の実況</Type>
    <EventPart>
      <Event type="線状降水帯">
        <EventName>線状降水帯発生</EventName>
        <Time>2020-06-23T07:15:00+09:00</Time>
      </Event>
    </EventPart>
  </Property>

〔観測実況形式の場合〕
  <Property>
    <Type>気象現象の実況</Type>
    <EventPart>
      <Sentence>線状降水帯発生</Sentence>
      <Event type="線状降水帯">
        <EventName>線状降水帯発生</EventName>
        <Time>2020-06-23T07:15:00+09:00</Time>
      </Event>
    </EventPart>
  </Property>
```

［解説］１　特定の気象現象について、事象（Event）を記載する。属性 type は当該事象の分類に用いるものとし、“線状降水帯”等を記載する。複数の属性 type の値を出現させる場合は、それぞれ個別の MeteorologicalInfo 部で記載する。
２　事象には、必要に応じて事象の名称（EventName）、クラス・レベル（EventClass）と事象の発生時刻（Time）のいずれか又は全てを記載する。
３　文章表現（Sentence）は、観測実況形式の場合に、EventPart 部を文章で記載する。
４　地域を分けて事象を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と事象（Event）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

３－１－１－２－１－１－８　VisibilityPart 部

視程について諸要素を記載する。

```
  〔観測実況形式の場合〕
<Property>
<Type>視程の実況</Type>
<VisibilityPart>
  <Sentence>２０キロメートル　８日０１５時００分　※</Sentence>
  <jmx_eb:Visibility type="視程" unit="km" condition="以下" description="２０キロメートル">20</jmx_eb:Visibility>
  <Time>2023-09-08T15:00:00+09:00</Time>
  <Remark>観測史上１位</Remark>
</Visibility>
</Property>
```

［解説］１　視程（Visibility）の属性 type は“視程”、属性 unit は“km”又は“m”、属性 condition は状況に応じて、“以上”、“以下”、“未満”、“値なし”のいずれかをとることがある。属性 description に視程の文字列表現を記載する。
２　文章表現（Sentence）は、観測実況形式の場合に、VisibilityPart 部を文章で記載する。
３　時間（Time）は、事象の発現時刻を記載する。
４　特記事項として、“観測史上１位”、“欠測あり”の状況がある場合、注意事項・付加事項（Remark）に記載する。複数ある場合は、list 型（空白区切り）で列挙する。ない場合は要素ごと省略する。
５　観測の内容（Item）下の地域・地点を示す要素として、地点（Station）をとる。コードの種類（属性

type）として、“国際地点番号”をとる。

３－１－１－２－１－１－９　TidalLevelPart 部

潮位について諸要素を記載する。

```
〔観測実況形式で副振動による場合〕
<Property>
  <Type>副振動の実況</Type>
  <TidalLevelPart>
    <Sentence>３日０５時０５分　約８０センチ　約１５分</Sentence>
    <jmx_eb:TidalLevel description="約８０センチ" type="潮位" unit="cm" >80</jmx_eb:TidalLevel>
    <jmx_eb:TidalPeriod type="周期" unit="分" description="約１５分">15</jmx_eb:TidalPeriod>
    <Time>2024-04-03T05:05:00+09:00</Time>
  </TIdalLevelPart>
 </Property>
```

［解説］１　潮位（TidalLevel）の属性 type は種類を表し、“潮位”等を記載する。複数の属性 type の値を出現させる場合は、それぞれ個別の MeteorologicalInfo 部で記載する。属性 unit は“cm”の固定。属性 condition は“約”、“値なし”をとる場合がある。属性 description に潮位の文字列表現を記載する。

２　潮位変動の周期（TidalPeriod）の属性 type は種類を表し、“周期”等を記載する。複数の属性 type の値を出現させる場合は、それぞれ個別の MeteorologicalInfo 部で記載する。属性 condition は“約”、“値なし”をとる場合がある。属性 unit は“分”の固定。属性 description に潮位変動の周期の文字列表現を記載する。

３　文章表現（Sentence）は、観測実況形式の場合に、TidalLevelPart 部を文章で記載する。

４　時間（Time）は、事象の発現時刻を記載する。

５　観測の内容（Item）下の地域・地点を示す要素として、地点（Station）をとる。コードの種類（属性 type）として、“潮位観測地点番号”、“他機関観測地点番号”をとる。

３－１－１－２－１－１－１０　TemperaturePart 部

気温について諸要素を記載する。

```
〔観測実況形式の場合〕
<Property>
  <Type>気温の実況</Type>
  <TemperaturePart>
    <Sentence>３日０５時０５分　氷点下２度　※</Sentence>
    <jmx_eb:Temperature description="氷点下２度" refID="1" type="朝の最低気温" unit="度">-2</jmx_eb:Temperature>
    <Time>2023-12-03T05:05:00+09:00</Time>
    <Remark>観測史上１位</Remark>
  </TemperaturePart>
</Property>
```

［解説］１　気温（Temperature）の属性 type は種類を表し、“気温”、“朝の最低気温”、“日中の最高気温”等を記載する。属性 unit は“度”固定。属性 condition は状況に応じて、“値なし”をとることがある。属性 description に気温の文字列表現を記載する。

２　文章表現（Sentence）は、観測実況形式の場合に、TemeraturePart 部を文章で記載する。

３　時間（Time）は、事象の発現時刻又は観測時刻を記載する。

４　特記事項として、“観測史上１位”、“欠測あり”の状況がある場合、注意事項・付加事項（Remark）に記載する。複数ある場合は、list 型（空白区切り）で列挙する。ない場合は要素ごと省略する。

５　観測の内容（Item）下の地域・地点を示す要素として、地点（Station）をとる。コードの種類（属性 type）として、“アメダス地点番号”をとる。

３－１－１－２－２　Area 部

Kind 部で表示する内容の対象となる市町村等の名称(Name)、コード(Code)等を示す。

```
〔観測データ形式の場合〕
<Area codeType="気象・地震・火山情報／市町村等">
  <Name>三宅村</Name>
  <Code>1338100</Code>
  <SubCity>三宅村神着</SubCity>
  <Status>付近</Status>
</Area>
```

［解説］１　Area は１回だけ出現する。対象となる地域・地点として、Area 部と Station 部は排他的に利用する。どちらをとるかは気象要素による。別表４参照。

２　Code に用いるコード種別名は“気象・地震・火山情報／市町村等”又は“気象情報／府県予報区・細分区域等”とし、Name は市町村等又は府県予報区・細分区域等の名称とする。“気象情報／府県予報区・細分区域等”とした場合のとりうる地域定義は別表３を参照。市町村等又は府県予報区・細分区域等の名称と対応するコードは、code.AreaInformationCity（表 1.5.3.2、詳細は別途提示）。

３　市町村等（二次細分区）をさらに分割した地域を示す場合に細分した領域（SubCity）に当該地域名を記載することがある。

４　気象要素の対象となる領域の状況に応じて、状況（Status）に“付近”をとることがある。

３－１－１－２－３　Station 部

Kind 部で表示する内容の対象となる観測所等地点の名称(Name)、コード(Code)等を示す。

```
〔観測データ形式の場合〕
<Station>
  <Name>三宅島</Name>
  <Code type="アメダス地点番号">44226</Code>
  <Location>東京都</Location>
</Station>
```

［解説］１　Station は１回だけ出現する。対象となる地域・地点として、Area 部と Station 部は排他的に利用する。どちらをとるかは気象要素による。別表４参照。

２　Code に用いるコード種別名は対象となる気象要素による。各気象要素の解説項を参照。

３　都道府県名を存在域（Location）に記載する。

３－１－２　TimeSeriesInfo 部

時刻定義セット(TimeDefines 部)と観測実況・予報の内容(Item 部)を時系列情報として記載する。

［解説］１　TimeSeriesInfo 部は、MeteorologicalInfos 以下に時刻定義セットの数だけ出現する。時刻定義セットの出現数は提供する観測実況・予報の個数に応じて可変。

２　MeteorologicalInfos 部の属性 type が“観測実況”(この場合の形式を以下「観測実況形式」という。)、“予想”（この場合の形式を以下「予想形式」という。）の際に本要素をとる。気象防災速報の場合、MeteorologicalInfos 部の属性 type が“観測実況”の際でも本要素をとらない（気象防災速報における観測等の状況を示すデータ形式を「観測データ形式」という。)。

３－１－２－１　TimeDefines 部

観測実況の対象となる期間、予想の期間やその時系列を示すとともに、対応する要素の個々の時刻定義(TimeDefine 部)を記載する。

```
〔予報期間が 24 時間毎で明後日朝までの場合の時刻定義〕
<TimeDefines>
  <TimeDefine timeId="1">
    <DateTime>2023-06-22T06:00:00+09:00</DateTime>
    <Duration>PT24H</Duration>
    <Name>２３日０６時まで</Name>
  </TimeDefine>
  <TimeDefine timeId="2">
    <DateTime>2023-06-23T06:00:00+09:00</DateTime>
    <Duration>PT24H</Duration>
    <Name>２４日０６時まで</Name>
  </TimeDefine>
</TimeDefines>

〔予報期間が１日毎で明後日までの場合の時刻定義〕
<TimeDefines>
  <TimeDefine timeId="1">
    <DateTime>2023-06-22T06:00:00+09:00</DateTime>
    <Duration>PT18H</Duration>
    <Name>２２日</Name>
  </TimeDefine>
  <TimeDefine timeId="2">
    <DateTime>2023-06-23T00:00:00+09:00</DateTime>
    <Duration>PT24H</Duration>
    <Name>２３日</Name>
```

```
    </TimeDefine>
    <TimeDefine timeId="3">
      <DateTime>2023-06-24T00:00:00+09:00</DateTime>
      <Duration>PT24H</Duration>
      <Name>２４日</Name>
    </TimeDefine>
  </TimeDefines>

  〔観測実況の実況値・統計値の対象期間を示す場合の時刻定義〕
  <TimeDefines>
    <TimeDefine timeId="1">
      <DateTime>2023-06-19T06:00:00+09:00</DateTime>
      <Duration>P3DT12H</Duration>
      <Name>１９日０６時から２２日１８時まで</Name>
    </TimeDefine>
   </TimeDefines>
```

［解説］１　TimeDefines 部は TimeSeriesInfo 以下に１回出現する。

２　時刻定義の方法は、提供する観測実況や予報の内容に応じて可変。

３　観測実況形式の場合、TimeDefine 部に記載される期間は、観測実況や統計を取る際の対象期間として記載する。例えば、「１９日０６時から２２日１８時まで」となる場合、「１時間最大雨量」としてこの期間における「１時間最大雨量」を示す。

４　予想形式の場合、TimeDefine 部に記載される期間が予想の対象期間となる。複数ある場合は、それぞれの期間に対する時系列の予報を示す。

３－１－２－１－１　TimeDefine 部

同一の TimeSeriesInfo 部で、気象要素の時系列での参照番号(refID)として用いるための時刻 ID を属性 timeID で記述し、基点時刻(DateTime)、対象期間(Duration)、時刻定義の内容(Name)を記載する。

［解説］１　属性 timeID の値は、“1”から始まり、終わりは提供する観測実況や予報の内容に応じて可変となる。

２　DateTime は TimeDefine 以下に１回出現し、時刻定義の基点時刻を JST 表記の dateTime 型で記載する。

３　Duration は TimeDefine 以下に１回出現し、時刻定義における基点時刻からの期間を記載する。値は予測対象期間や観測実況の統計期間・対象期間により可変となる。とりうる値の例として次のとおり。

PT6H：予報期間を 6 時間と定義する場合

PT24H：予報期間を 24 時間と定義する場合

P1D：予報期間を１日と定義する場合

P3DT6H：予報期間を 3 日 6 時間と定義する場合

４　時刻定義の内容（Name）は、対象となる予想期間や観測実況・統計期間を文章で記載する。原則として『始まりの日時（分）「から」終わりの日時（分）「まで」』とするが、気象要素に応じた慣例的形式となる場合もある。

３－１－２－２　Item 部

観測実況・予想の内容(Kind 部)と、対象地域(Area 部)又は対象観測所（Station 部）を記載する。

```
〔観測実況形式の場合〕
<Item>
  <Kind>
      <Text type="解説"/>
     <Text type="時系列解説" refID="1">６日１４時から７日１６時までの降水量（アメダスによる速報値）</Text>
      <Text type="気象要素">降水量（アメダスによる速報値）</Text>
    </Property>
  </Kind>
</Item>
```

観測実況形式、予想形式の「解説」部

```
<Item>
  <Kind>
    <Property>
      <Type>雨の実況</Type>
      <PrecipitationPart>
        <Sentence>５２ミリ　７日１６時００分</Sentence>
       <jmx_eb:Precipitation type="降水量" unit="ミリ" description="５２ミリ" refID="1">52.0</jmx_eb:Precipitation>
        <Time>2023-09-07T16:00:00+09:00</Time>
       </PrecipitationPart>
     </Property>
  </Kind>
  <Station>
    <Name>三宅島</Name>
    <Code type="アメダス地点番号">44226</Code>
    <Location>東京都</Location>
  </Station>
</Item>
```

観測実況形式の気象要素部（地点・地域の数繰り返す）

（略）

```
<Item>
  <Kind>
    <Property>
      <Type>雨の実況</Type>
      <Text type="時系列補足" refID="1"/>
      <Text type="補足"/>
    </Property>
  </Kind>
</Item>
```

観測実況形式、予想形式の「補足」部

〔予想形式の場合〕

```
<Item>
  <Kind>
    <Property>
      <Type>雨の予想</Type>
      <Text type="解説"/>
      <Text type="時系列解説" refID="1">７日に予想される１時間降水量は、いずれも多い所で、</Text>
      <Text type="時系列解説" refID="2">８日に予想される１時間降水量は、いずれも多い所で、</Text>
      <Text type="気象要素">予想される１時間降水量（いずれも多い所）</Text>
    </Property>
  </Kind>
</Item>
```

観測実況形式、予想形式の「解説」部

```
<Item>
  <Kind>
    <Property>
      <Type>雨の予想</Type>
      <PrecipitationPart>
        <Base>
          <jmx_eb:Precipitation refID="1" type="１時間最大雨量" unit="mm"/>
          <jmx_eb:Precipitation description="５０ミリ" refID="2" type="１時間最大雨量"
           unit="mm">50</jmx_eb:Precipitation>
        </Base>
      </PrecipitationPart>
    </Property>
  </Kind>
  <Area>
    <Name>東京地方</Name>
    <CodeList>130011 130012 130013 130014 130015</CodeList>
  </Area>
</Item>
```

予想形式の気象要素部（地点・地域の数繰り返す）

（略）

```
<Item>
  <Kind>
    <Property>
      <Type>雨の予想</Type>
      <Text type="時系列補足" refID="1"/>
      <Text type="時系列補足" refID="2"/>
      <Text type="補足"/>
    </Property>
  </Kind>
</Item>
```

観測実況形式、予想形式の「補足」部

［解説］１　観測実況形式及び予想形式では、TimeSeriesInfo 部の最初の Item 部を当該気象要素に係る解説のための文章（Text）とし、２番目以降の Item 部を当該気象要素、最後の Item 部を当該気象要素に係る補足のための文章（Text）とする。Item 部は以下の構成となる。

Item 部（解説部）　１回
Item 部（気象要素部）　地域・地点の数繰り返す
Item 部（補足部）　１回

２　Item 部の解説部と補足部は、対象地域及び対象観測所をとらない。

３－１－２－２－１　Kind 部

文章情報又は観測実況・予想の値(Property 部)を記載する。

３－１－２－２－１－１　Property 部

文章情報・気象要素の種類（Type)、文章（Text)、観測の実況値や予想値等(PrecipitationPart 部等)を記載する。

［解説］１　Property 部は Kind 以下に１回以上出現し、各 Property 部に記載する内容は、MeteorologicalInfos 部の属性 type、気象要素の種類（./Type）に依存する。出現する Property/Type の内容及び組み合わせは、別表４のとおり。

３－１－２－２－１－１－１　Type

気象要素の種類を記載する。

［解説］１　情報中の中分類として値を表示に用いることもできる。
２　他の関連要素と記載する気象要素の種類の対応は別表４のとおり。

３－１－２－２－１－１－２　Text 部

観測実況形式及び予想形式の解説及び補足の文章を記載する。

```
〔観測実況形式・予想形式の解説を提供する場合〕
<Property>
<Type>雨の実況</Type>
   <Text type="解説"/>
   <Text type="時系列解説" refID="1">６日１４時から７日１６時までの降水量（アメダスによる速報値）</Text>
   <Text type="気象要素">降水量（アメダスによる速報値）</Text>
</Property>

〔観測実況形式・予想形式の補足を提供する場合〕
<Property>
   <Type>雨の実況</Type>
   <Text type="時系列補足" refID="1"/>
   <Text type="補足"/>
</Property>

〔観測実況形式・予想形式で、その他の実況を提供する場合〕
<Property>
   <Type>その他の実況</Type>
   <Text type="本文" refID="1">文章形式でその他の気象現象をお知らせする文章</Text>
</Property>
```

［解説］１　文章形式の場合、原則として属性 type を“本文”とした文章（Text）を１回とるが、繰り返す場合がある。

２　観測実況形式又は予想形式の場合、TimeSeriesInfo 部の最初の Item 部を本観測実況・予想要素の下で伝える対象となる気象要素（以下、本項で「当該気象要素」という。）に係る解説のための文章（Text）として文章（Text）の属性 type を“解説”、“時系列解説”、“気象要素”としたものとする。２番目以降の Item 部を当該気象要素とし、最後の Item 部を当該気象要素に係る補足のための文章（Text）として文章（Text）の属性 type を“時系列補足”、“補足”としたものする。この場合、本 Text 部の親要素となる気象要素の種類（Type）については、当該気象要素の種類と同じとする。例えば、当該気象要素の要素 Type 値が“雨の実況”ならば、解説及び補足用の文章（Text）の親要素 Type 値も“雨の実況”となる。

３　解説のための文章（Text）であって、属性 type が“解説”の場合、時系列を通じた当該気象要素の内容全体に対する解説を記載する。属性 type が“気象要素”の場合、個別気象要素に対する情報見出しを記載する。属性 type が“時系列解説”の場合、時刻定義セットにおける参照番号を属性 refID に記載し、当該時刻における当該気象要素の個々の内容の解説を記載する。

４　補足のための文章（Text）であって、属性 type が“時系列補足”の場合、時刻定義セットにおける参

照番号を属性 refID に記載し、当該時刻における当該気象要素個別の内容の補足を記載する。属性 type が“補足”の場合、時系列を通じた当該気象要素の内容全体に対する補足を記載する。

５　観測実況形式又は予想形式の場合、解説及び補足のための文章（Text）を含む Item 部は、対象地域（Area）及び対象観測所（Station）をとらない。

６　観測実況形式又は予想形式で気象要素の種類（Type）の値が“その他の実況”又は“その他の予想”となる文章（Text）については、その気象の実況又は予想を文章形式で属性 type を“本文”として記載する。

７　観測データ形式の場合は、解説及び補足のための Text 部をとらない。

３－１－２－２－１－１－３　PrecipitationPart 部

雨量について諸要素を記載する。

```
〔観測実況形式で、雨量が観測所の場合〕
<Item>
  <Kind>
    <Property>
      <Type>雨の実況</Type>
      <PrecipitationPart>
        <Sentence>５２ミリ　７日１６時００分　※</Sentence>
        <jmx_eb:Precipitation description="５２ミリ" type="前１時間降水量"
         unit="mm" refID="1">52</jmx_eb:Precipitation>
        <Time>2023-09-07T16:00:00+09:00</Time>
        <Remark>観測史上１位</Remark>
      </PrecipitationPart>
    </Property>
  <Kind>
  <Station>
    <Name>三宅島</Name>
    <Code type="アメダス地点番号">44226</Code>
    <Location>東京都</Location>
  </Station>
<Item>

〔予想形式の場合〕
<Item>
  <Kind>
    <Property>
      <Type>雨の予想</Type>
      <PrecipitationPart>
        <Base>
          <jmx_eb:Precipitation condition="値なし" refID="1" type="１時間最大雨量" unit="mm"/>
          <jmx_eb:Precipitation description="５０ミリ" refID="2" type="１時間最大雨量
            " unit="mm">50</jmx_eb:Precipitation>
        </Base>
      </PrecipitationPart>
    </Property>
  </Kind>
  <Area>
    <Name>東京地方</Name>
    <CodeList>130011 130012 130013 130014 130015</CodeList>
  </Area>
</Item>
```

［解説］１　雨量（Precipitaition）の属性 type は種類を表し、“１時間最大雨量”、“２４時間最大雨量”、“４８時間最大雨量”、“７２時間最大雨量”、“降水量”、“前１時間降水量”、“１時間解析雨量”等を記載する。異なる属性 type の値を出現させる場合は、それぞれ個別の TimeSeriesInfo 部で記載する。属性 unit は“mm”の固定。属性 condition は“約”、“以上”をとる場合があり、予想値を提供しない場合には“値なし”をとる。時刻定義セットにおける参照番号を属性 refID に記載する。属性 description に雨量の文字列表現を記載する。

２　予想形式で地域を分けて雨量を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と雨量（Precipitation）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

３　文章表現（Sentence）は、観測実況形式の場合に、PrecipitationPart 部を文章で記載する。

４　時間（Time）は、事象の発現時刻又は解析時刻を記載する。

５　特記事項として、“観測史上１位”、“欠測あり”の状況がある場合、注意事項・付加事項（Remark）に

記載する。複数ある場合は、list 型（空白区切り）で列挙する。ない場合は要素ごと省略する。

６　観測実況形式で観測の内容（Item）下の地域・地点を示す要素として、雨量が観測所の場合は地点（Station)、地域の場合は地域（Area）をとる。地点の場合、コードの種類（属性 type）として、“アメダス地点番号”、“他機関観測地点番号”をとる。地域の場合は、“気象・地震・火山情報／市町村等”をとり二次細分区コードを使用する。

７　予想形式の場合で予想の内容（Item）下の地域・地点を示す要素としては、地域（Area）をとる。詳細は３－１－２－２－２　Area 部を参照。

３－１－２－２－１－１－４　SnowfallDepthPart 部

降雪量について諸要素を記載する。

〔観測実況形式の場合〕

```
<Property>
  <Type>雪の実況</Type>
  <SnowfallDepthPart>
    <Sentence>４０センチ　８日０７時００分　※</Sentence>
  <jmx_eb:SnowfallDepth type="６時間の降雪深さ" unit="cm" description="４０センチ" refID="1">40</jmx_eb:SnowfallDepth>
    <Time>2023-12-08T07:00:00+09:00</Time>
    <Remark>観測史上１位</Remark>
  </SnowfallDepthPart>
</Property>
```

〔予想形式の場合〕

```
<Property>
  <Type>雪の予想</Type>
  <SnowfallDepthPart>
    <Base>
      <jmx_eb:SnowfallDepth type="６時間の降雪深さ" unit="cm" condition="値なし" refID="1"></jmx_eb:SnowfallDepth>
      <jmx_eb:SnowfallDepth type="６時間の降雪深さ" unit="cm" description="４０センチ" refID="2">40</jmx_eb:SnowfallDepth>
    </Base>
  </SnowfallDepthPart>
</Property>
```

［解説］１　降雪量（SnowfallDepth）の属性 type は種類を表し、“３時間の降雪深さ”、“６時間の降雪深さ”、“１２時間の降雪深さ”、“２４時間の降雪深さ”、“４８時間の降雪深さ”、“７２時間の降雪深さ”、“降雪量”等を記載する。異なる属性 type の値を出現させる場合は、それぞれ個別の TimeSeriesInfo 部で記載する。属性 unit は“cm”の固定。属性 condition は“約”、“以上”をとる場合があり、予想値を提供しない場合には“値なし”をとる。時刻定義セットにおける参照番号を属性 refID に記載する。属性 description に降雪量の文字列表現を記載する。

２　予想形式で地域を分けて降雪量を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と降雪量（SnowfallDepth）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

３　文章表現（Sentence）は、観測実況形式の場合に、SnowfallDepthPart 部を文章で記載する。

４　時間（Time）は、事象の発現時刻又は解析時刻を記載する。

５　特記事項として、“観測史上１位”、“欠測あり”の状況がある場合、注意事項・付加事項（Remark）に記載する。複数ある場合は、list 型（空白区切り）で列挙する。ない場合は要素ごと省略する。

６　観測実況形式で観測の内容（Item）下の地域・地点を示す要素として、降雪量が観測所の場合は地点（Station)、地域の場合は地域（Area）をとる。地点の場合、コードの種類（属性 type）として、“アメダス地点番号”、“他機関観測地点番号”、“委託観測所番号”をとる。地域の場合は、“気象・地震・火山情報／市町村等”をとり二次細分区コードを使用する。

７　予想形式の場合で予想の内容（Item）下の地域・地点を示す要素としては、地域（Area）をとる。詳細は３－１－２－２－２　Area 部を参照。

３－１－２－２－１－１－５　SnowDepthPart 部

積雪について諸要素を記載する。

〔観測実況形式の場合〕

```
<Property>
  <Type>雪の実況</Type>
  <SnowDepthPart>
    <Sentence>１００センチ　８日０７時００分　※</Sentence>
    <jmx_eb:SnowDepth type="積雪深" unit="cm" description="１００センチ" refID="1">100</jmx_eb:SnowDepth>
    <Time>2023-12-08T07:00:00+09:00</Time>
```

```
        <Remark>観測史上１位</Remark>
      </SnowDepthPart>
    </Property>

〔予想形式の場合〕
    <Property>
      <Type>雪の予想</Type>
      <SnowDepthPart>
        <Base>
          <jmx_eb:SnowDepth type="積雪深" unit="cm" condition="値なし" refID="1"></jmx_eb:SnowDepth>
          <jmx_eb:SnowDepth type="積雪深" unit="cm" description="１００センチ" refID="2">100</jmx_eb:SnowDepth>
        </Base>
      </SnowDepthPart>
    </Property>
```


［解説］１　積雪の深さ（SnowDepth）の属性 type は種類を表し、“積雪深”等を記載する。異なる属性 type の値を出現させる場合は、それぞれ個別の TimeSeriesInfo 部で記載する。属性 unit は“cm”の固定。属性 condition は“約”、“以上”をとる場合があり、予想値を提供しない場合には“値なし”をとる。時刻定義セットにおける参照番号を属性 refID に記載する。属性 description に積雪の深さの文字列表現を記載する。

２　予想形式で地域を分けて積雪の深さを記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と積雪の深さ（SnowDepth）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

３　文章表現（Sentence）は、観測実況形式の場合に、SnowDepthPart 部を文章で記載する。

４　時間（Time）は、事象の発現時刻又は解析時刻を記載する。

５　特記事項として、“観測史上１位”、“欠測あり”の状況がある場合、注意事項・付加事項（Remark）に記載する。複数ある場合は、list 型（空白区切り）で列挙する。ない場合は要素ごと省略する。

６　観測実況形式で観測の内容（Item）下の地域・地点を示す要素として、積雪の深さが観測所の場合は地点（Station）、地域の場合は地域（Area）をとる。地点の場合、コードの種類（属性 type）として、“アメダス地点番号”、“他機関観測地点番号”、“委託観測所番号”をとる。地域の場合は、“気象・地震・火山情報／市町村等”をとり二次細分区コードを使用する。

７　予想形式の場合で予想の内容（Item）下の地域・地点を示す要素としては、地域（Area）をとる。詳細は３－１－２－２－２　Area 部を参照。

３－１－２－２－１－１－６　WindPart、WindSpeed、WindDirection 部

風向風速の時系列について諸要素を記載する。


```
〔観測実況形式の場合〕
<Item>
 <Kind>
  <Property>
    <Type>風の実況</Type>
    <Text type="解説"/>
    <Text type="時系列解説" refID="1">６日１４時から７日１６時までの最大瞬間風速･最大風速(アメダスによる速報値　単
     位：メートル）</Text>
    <Text type="気象要素">最大瞬間風速・最大風速（アメダスによる速報値　単位：メートル）</Text>
  </Property>
 </Kind>
</Item>
<Item>
 <Kind>
  <Property>
    <Type>風の実況</Type>
    <WindPart>
      <Sentence>２５メートル　北東　　７日１１時５７分　※観測史上１位</Sentence>
      <jmx_eb:WindDirection description="北東" type="風向" unit="８方位漢字" refID="1">北東</jmx_eb:WindDirection>
      <jmx_eb:WindSpeed description="２５メートル" type="最大瞬間風速" unit="m/s" refID="1">25</jmx_eb:WindSpeed>
      <Time>2023-09-07T11:57:00+09:00</Time>
      <Remark>観測史上１位</Remark>
    </WindPart>
  </Property>
  <Property>
    <Type>風の実況</Type>
    <WindPart>
```

```
      <Sentence>１３メートル　北北東　７日１１時５０分　※観測史上１位</Sentence>
      <jmx_eb:WindDirection description="北北東" type="風向" unit="８方位漢字" refID="1">北北東</jmx_eb:WindDirection>
      <jmx_eb:WindSpeed description="１３メートル" type="最大風速" unit="m/s" refID="1">13</jmx_eb:WindSpeed>
      <Time>2023-09-07T11:50:00+09:00</Time>
      <Remark>観測史上１位</Remark>
    </WindPart>
  </Property>
      （略）

〔予想形式で、風速の予想の場合〕
  <Property>
   <Type>風の予想</Type>
    <WindSpeedPart>
     <Base>
      <jmx_eb:WindSpeed description="１５メートル" refID="1" type="最大風速" unit="m/s">15</jmx_eb:WindSpeed>
      <jmx_eb:WindSpeed description="２５メートル" refID="1" type="最大瞬間風速" unit="m/s">25</jmx_eb:WindSpeed>
      <jmx_eb:WindSpeed description="２０メートル" refID="2" type="最大風速" unit="m/s">20</jmx_eb:WindSpeed>
      <jmx_eb:WindSpeed description="３０メートル" refID="2" type="最大瞬間風速" unit="m/s">30</jmx_eb:WindSpeed>
     </Base>
    </WindSpeedPart>
  </Property>

〔予想形式で、風向と風速の予想の場合〕
<Item>
 <Kind>
  <Property>
   <Type>風の予想</Type>
   <Text type="解説"/>
   <Text type="時系列解説" refID="1">７日に予想される最大風速（最大瞬間風速）は、</Text>
   <Text type="時系列解説" refID="2">８日に予想される最大風速（最大瞬間風速）は、</Text>
   <Text type="気象要素">予想される最大風速（最大瞬間風速）</Text>
  </Property>
 </Kind>
</Item>
<Item>
 <Kind>
  <Property>
    <Type>風の予想</Type>
    <WindDirectionPart>
     <Base>
      <jmx_eb:WindDirection refID="1" type="風向" unit="８方位漢字"/>
      <jmx_eb:WindDirection refID="2" description="南東" type="風向" unit="８方位漢字">南東</jmx_eb:WindDirection>
     </Base>
     <Becoming>
      <TimeModifier>のち</TimeModifier>
      <jmx_eb:WindDirection refID="1" type="風向" unit="８方位漢字"/>
      <jmx_eb:WindDirection refID="2" description="南" type="風向" unit="８方位漢字">南</jmx_eb:WindDirection>
     </Becoming>
    </WindDirectionPart>
    <WindSpeedPart>
     <Base>
      <jmx_eb:WindSpeed refID="1" type="最大風速" unit="m/s"/>
      <jmx_eb:WindSpeed refID="1" type="最大瞬間風速" unit="m/s"/>
      <jmx_eb:WindSpeed description="１５メートル" refID="2" type="最大風速" unit="m/s">15</jmx_eb:WindSpeed>
      <jmx_eb:WindSpeed description="３０メートル" refID="2" type="最大瞬間風速" unit="m/s">30</jmx_eb:WindSpeed>
     </Base>
    </WindSpeedPart>
  </Property>
      （略）
```

［解説］１　風について、風向（WindDirection）、風速(WindSpeed)を記載する。“最大風速”と“最大瞬間風速”の組み合わせ以外の異なる属性 type の値の組み合わせを出現させる場合は、それぞれ個別の TimeSeriesInfo 部で記載する。

２　風向（WindDirection）について、観測実況形式では１６方位の漢字表現を用いる。属性 type は“風向”、属性 unit は“１６方位漢字”の固定。予想形式では８方位の漢字表現を用いる。属性 type は“風向”、属性 unit は“８方位漢字”の固定。いずれも属性 condition は“値なし”を記載することがある。時刻定義セットにおける参照番号を属性 refID に記載する。属性 description に風向の文字列表現を記

載する。

３　風速（WindSpeed）には風速を記載する。属性 type は“最大風速”、“最大瞬間風速”のいずれか、属性 unit は“m/s”の固定。属性 condition は“値なし”を記載することがある。時刻定義セットにおける参照番号を属性 refID に記載する。属性 description に風速の文字列表現を記載する。

４　時間（Time）は、事象の発現時刻を記載する。

５　特記事項として、“観測史上１位”、“欠測あり”の状況がある場合、注意事項・付加事項（Remark）に記載する。複数ある場合は、list 型（空白区切り）で列挙する。ない場合は要素ごと省略する。

６　観測実況形式の場合で同一地点にて最大風速と最大瞬間風速を提供する場合、気象要素の観測実況の値（Property）をそれぞれ１回ずつ繰り返して記載する（順不同）。

７　予想形式の場合で同一地点にて最大風速と最大瞬間風速を提供する場合、同一の風速部(WindSpeedPart)の中に属性 type で種別を分けて複数記載する。時系列予想の場合は、時刻定義セットにおける参照番号を属性 refID に記載して複数記載する（順不同）。

８　予想形式の場合で風向を提供する場合、同一の気象要素の予想の値（Property）に風向部（WindDirectionPart）と風速部（WindSpeedPart）を記載する。風向の変化傾向がある場合は、変化後の風向を変化後（Becoming）に記載する。時系列予想の場合は、時刻定義セットにおける参照番号を属性 refID に記載してそれぞれに複数記載する。変化後の風向がない場合は値を省略する。

９　予想形式で地域を分けて風の予想を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と風の予想（上記のとおり）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

１０　観測実況形式で観測の内容（Item）下の地域・地点を示す要素として、地点（Station）をとる。コードの種類（属性 type）として、“アメダス地点番号”をとる。

１１　予想形式の場合で予想の内容（Item）下の地域・地点を示す要素としては、地域（Area）をとる。詳細は３－１－２－２－２　Area 部を参照。

３－１－２－２－１－１－７　WaveHeightPart 部

波浪、水位について諸要素を記載する。

〔観測実況形式の場合〕

```
<Property>
  <Type>波の実況</Type>
  <WaveHeightPart>
      <Sentence>１．５メートル　８日０７時００分</Sentence>
      <jmx_eb:WaveHeight description="１．５メートル" refID="1" type="波高" unit="m">1.5</jmx_eb:WaveHeight>
      <Time>2023-12-08T07:00:00+09:00</Time>
  </WaveHeightPart>
</Property>
```

〔予想形式で波浪の場合〕

```
<Property>
  <Type>波の予想</Type>
  <WaveHeightPart>
    <Base>
      <jmx_eb:WaveHeight refID="1" type="波高" unit="m"/>
      <jmx_eb:WaveHeight description="１．５メートル" refID="2" type="波高" unit="m">1.5</jmx_eb:WaveHeight>
    </Base>
  </WaveHeightPart>
</Property>
```

〔予想形式で海域を分けてうちあげ高水位を記載する場合〕

```
<Property>
  <Type>水位の予想</Type>
  <WaveHeightPart>
    <Base>
      <Local>
        <AreaName>江戸湾</AreaName>
         <jmx_eb:WaveHeight description="３．５メートル" refID="1" type="最高うちあげ高水位" unit="m"
         >3.5</jmx_eb:WaveHeight>
        <Time>2023-12-08T07:00:00+09:00</Time>
      </Local>
    </Base>
  </WaveHeightPart>
</Property>
```

［解説］１　波浪の高さ・水位（WaveHeight）の属性 type は種類を表し、“波高”、“うちあげ高水位”、“最高うちあげ高水位”等を記載する。異なる属性 type の値を出現させる場合は、それぞれ個別の TimeSeriesInfo 部で記載する。属性 unit は“m”、“cm”のいずれか。属性 condition は“約”、“以上”をとる場合があり、うねりがある場合は“うねり”を、予想値を提供しない場合には“値なし”をとる。時刻定義セットにおける参照番号を属性 refID に記載する。属性 description に波浪の高さ・水位の文字列表現を記載する。

２　予想形式で地域を分けて波浪の高さ･水位を記載する場合には､Base/Local 以下に､地域名（AreaName）と波浪の高さ・水位（WaveHeight）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

３　文章表現（Sentence）は、観測実況形式の場合に、WaveHeightPart 部を文章で記載する。

４　時間（Time）は、事象の発現時刻、解析時刻又は予想時刻を記載する。

５　特記事項として、“観測史上１位”、“欠測あり”の状況がある場合、注意事項・付加事項（Remark）に記載する。複数ある場合は、list 型（空白区切り）で列挙する。ない場合は要素ごと省略する。

６　観測実況形式で観測の内容（Item）下の地域・地点を示す要素として、地点（Station）をとる。コードの種類（属性 type）として、“水位基準地点番号”、“他機関観測地点番号”等をとる。

７　予想形式の場合で予想の内容（Item）下の地域・地点を示す要素としては、地点（Station）又は地域（Area）をとる。地点をとる場合のコードの種類（属性 type）として、“水位基準地点番号”、“他機関観測地点番号”等をとる。詳細は３－１－２－２－２　Area 部を参照。

３－１－２－２－１－１－８　TidalLevelPart 部

潮位について諸要素を記載する。

〔観測実況形式の場合〕

```
<Property>
  <Type>潮位の実況</Type>
  <TidalLevelPart>
    <Sentence>２３３センチ　４日１４時０９分※</Sentence>
    <jmx_eb:TidalLevel description="２３３センチ" type="潮位" unit="cm" refID="1">233</jmx_eb:TidalLevel>
    <Time>2018-09-04T14:09:00+09:00</Time>
    <Remark>観測史上１位</Remark>
  </TidalLevelPart>
</Property>
```

〔予想形式で地域を分けて潮位を記載する場合〕

```
<Property>
  <Type>潮位の予想</Type>
  <TidalLevelPart>
    <Base>
     <Local>
       <AreaName>〇〇湾</AreaName>
      <jmx_eb:TidalLevel description="標高　１．２メートルの高さ" refID="1" type="最高潮位"
      unit="m">1.2</jmx_eb:TidalLevel>
      <jmx_eb:TidalLevel description="標高　１．２メートルの高さ" refID="2" type="最高潮位"
      unit="m">1.2</jmx_eb:TidalLevel>
     </Local>
    </Base>
  </TidalLevelPart>
</Property>
```

〔予想形式で満潮・干潮時刻を記載する場合〕

```
<Property>
  <Type>潮位の予想</Type>
  <TidalLevelPart>
    <Base>
      <Sequence refID="1">
        <Sentence>満潮時刻　１９日１７時０２分</Sentence>
        <jmx_eb:TidalLevel condition="値なし" type="満潮潮位" unit="m"/>
        <Time>2023-09-19T17:02:00+09:00</Time>
      </Sequence>
      <Sequence refID="1">
        <Sentence>干潮時刻　１９日２３時４０分</Sentence>
        <jmx_eb:TidalLevel condition="値なし" type="干潮潮位" unit="m"/>
        <Time>2023-09-19T23:40:00+09:00</Time>
      </Sequence>
    </Base>
```

```
    </TidalLevelPart>
  </Property>
```

［解説］１　潮位（TidalLevel）の属性 type は種類を表し、“潮位”、“最高潮位”、“満潮潮位”、“干潮潮位”等を記載する。異なる属性 type の値の組み合わせを出現させる場合は、それぞれ個別の TimeSeriesInfo 部で記載する。属性 unit は“m”、“cm”のいずれか。属性 condition は“約”、“以上”をとる場合があり、予想値を提供しない場合には“値なし”をとる。時刻定義セットにおける参照番号を属性 refID に記載する。属性 description に潮位の文字列表現を記載する。

２　予想形式で地域を分けて潮位を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と潮位（TidalLevel）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

３　潮位の予測において、同一時刻定義セット（特定の時間）内において不定多数回の事象予測を連続事象（Sequence）により記載する。

４　文章表現（Sentence）は、観測実況形式の場合に TidalLevelPart 部を、予想形式のうち連続事象（Sequence）の場合には個々の Sequence 部を文章で記載する。

５　時間（Time）は、事象の発現時刻、解析時刻又は予想時刻を記載する。

６　特記事項として、“観測史上１位”、“欠測あり”の状況がある場合、注意事項・付加事項（Remark）に記載する。複数ある場合は、list 型（空白区切り）で列挙する。ない場合は要素ごと省略する。

７　観測実況形式で観測の内容（Item）下の地域・地点を示す要素として、地点（Station）をとる。コードの種類（属性 type）として、“潮位観測地点番号”、“他機関観測地点番号”等をとる。

８　予想形式の場合で予想の内容（Item）下の地域・地点を示す要素としては、地点（Station）又は地域（Area）をとる。地点の場合のコードの種類（属性 type）として、“潮位観測地点番号”、“他機関観測地点番号”をとる。詳細は３－１－２－２－２　Area 部を参照。

３－１－２－２－１－１－９　VisibilityPart 部

視程について諸要素を記載する。

```
  〔観測実況形式の場合〕
<Property>
  <Type>視程の実況</Type>
  <VisibilityPart>
    <Sentence>２０キロメートル　８日０１５時００分　※</Sentence>
    <jmx_eb:Visibility type="視程" unit="km" condition="以下" description="２０キロメートル" refID="1">20</jmx_eb:Visibility>
    <Time>2023-09-08T15:00:00+09:00</Time>
  </Visibility>
</Property>

  〔予想形式の場合〕
<Property>
  <Type>視程の予想</Type>
  <VisibilityPart>
    <Base>
      <jmx_eb:Visibility type="視程" unit="m" condition="以下" description="２００メートル以下" refID="1">200</jmx_eb:Visibility>
    </Base>
  </Visibility>
```

［解説］１　視程（Visibility）の属性 type は“視程”を記載する。異なる属性 type の値の組み合わせを出現させる場合は、それぞれ個別の TimeSeriesInfo 部で記載する。属性 unit は“km”又は“m”、属性 condition は状況に応じて、“以上”、“以下”、“未満”、“値なし”のいずれかをとることがある。時刻定義セットにおける参照番号を属性 refID に記載する。属性 description に視程の文字列表現を記載する。

２　予想形式で地域を分けて視程を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と視程（Visibility）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

３　文章表現（Sentence）は、観測実況形式の場合に、VisibilityPart 部を文章で記載する。

４　時間（Time）は、事象の発現時刻又は解析時刻を記載する。

５　特記事項として、“観測史上１位”、“欠測あり”の状況がある場合、注意事項・付加事項（Remark）に記載する。複数ある場合は、list 型（空白区切り）で列挙する。ない場合は要素ごと省略する。

６　観測の内容（Item）下の地域・地点を示す要素として、地点（Station）をとる。コードの種類（属性 type）として、“国際地点番号”をとる。

７　予想形式の場合で予想の内容（Item）下の地域・地点を示す要素としては、地域（Area）をとる。詳

細は３－１－２－２－２　Area 部を参照。

３－１－２－２－１－１－１０　TemperaturePart 部

気温について諸要素を記載する。

```
〔観測実況形式の場合〕
<Property>
  <Type>気温の実況</Type>
  <TemperaturePart>
    <Sentence>氷点下２度　８日０１時００分</Sentence>
    <jmx_eb:Temperature description="氷点下２度" refID="1" type="朝の最低気温" unit="度">-2</jmx_eb:Temperature>
    <Time>2023-09-08T01:00:00+09:00</Time>
  </TemperaturePart>
</Property>

〔予想形式の場合〕
<Property>
  <Type>気温の予想</Type>
  <TemperaturePart>
   <Base>
    <jmx_eb:Temperature description="氷点下２度" refID="1" type="朝の最低気温" unit="度">-2</jmx_eb:Temperature>
   </Base>
  </TemperaturePart>
</Property>
```

［解説］１　気温（Temperature）の属性 type は種類を表し、“気温”、“最低気温”、“最高気温”、“朝の最低気温”、“日中の最高気温”等を記載する。異なる属性 type の値の組み合わせを出現させる場合は、それぞれ個別の TimeSeriesInfo 部で記載する。属性 unit は“度”固定、属性 condition は状況に応じて、“以上”、“以下”、“未満”、“値なし”のいずれかをとることがある。時刻定義セットにおける参照番号を属性 refID に記載する。属性 description に気温の文字列表現を記載する。

２　予想形式で地域を分けて気温を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と気温（Temperature）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

３　文章表現（Sentence）は、観測実況形式の場合に、TemperaturePart 部を文章で記載する。

４　時間（Time）は、事象の発現時刻又は解析時刻を記載する。

５　特記事項として、“観測史上１位”、“欠測あり”の状況がある場合、注意事項・付加事項（Remark）に記載する。複数ある場合は、list 型（空白区切り）で列挙する。ない場合は要素ごと省略する。

６　観測の内容（Item）下の地域・地点を示す要素として、地点（Station）をとる。コードの種類（属性 type）として、“アメダス地点番号”をとる。

７　予想形式の場合で予想の内容（Item）下の地域・地点を示す要素としては、地点（Station）又は地域（Area）をとる。地点の場合のコードの種類（属性 type）として、“アメダス地点番号”をとる。詳細は３－１－２－２－２　Area 部を参照。

３－１－２－２－１－１－１１　HumidityPart 部

湿度について諸要素を記載する。

```
〔観測実況形式の場合〕
<Property>
  <Type>湿度の実況</Type>
  <HumidityPart>
    <Sentence>実効湿度６０パーセント　最小湿度３０パーセント</Sentence>
    <jmx_eb:Humidity type="実効湿度" unit="%" description="６０パーセント" refID="1">60</jmx_eb:Humidity>
    <jmx_eb:Humidity type="最小湿度" unit="%" description="３０パーセント" refID="1">30</jmx_eb:Humidity>
  </HumidityPart>
</Property>

〔予想形式の場合〕
<Property>
  <Type>湿度の予想</Type>
  <HumidityPart>
   <Base>
     <jmx_eb:Humidity type="実効湿度" unit="%" description="６０パーセント" refID="1">60</jmx_eb:Humidity>
     <jmx_eb:Humidity type="最小湿度" unit="%" description="３０パーセント" refID="1">30</jmx_eb:Humidity>
   </Base>
```

```
  </HumidityPart>
</Property>
```

［解説］１　湿度（Humidity）の属性 type は種類を表し、“湿度”、“実効湿度”、“最小湿度”等を記載する。“実行湿度”と“最小湿度”の組み合わせ以外の異なる属性 type の値の組み合わせを出現させる場合は、それぞれ個別の TimeSeriesInfo 部で記載する。属性 unit は“%”固定、属性 condition は状況に応じて、“以上”、“以下”、“未満”、“値なし”のいずれかをとることがある。時刻定義セットにおける参照番号を属性 refID に記載する。属性 description に気温の文字列表現を記載する。

２　予想形式で地域を分けて気温を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と湿度（Humidity）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

３　文章表現（Sentence）は、観測実況形式の場合に、HumidityPart 部を文章で記載する。

４　時間（Time）は、事象の発現時刻又は解析時刻を記載する。

５　特記事項として、“観測史上１位”、“欠測あり”の状況がある場合、注意事項・付加事項（Remark）に記載する。複数ある場合は、list 型（空白区切り）で列挙する。ない場合は要素ごと省略する。

６　観測の内容（Item）下の地域・地点を示す要素として、地点（Station）をとる。コードの種類（属性 type）として、“アメダス地点番号”をとる。

７　予想形式の場合で予想の内容（Item）下の地域・地点を示す要素としては、地点（Station）又は地域（Area）をとる。地点の場合のコードの種類（属性 type）として、“アメダス地点番号”をとる。詳細は３－１－２－２－２　Area 部を参照。

３－１－２－２－１－１－１２　EventPart 部

発生した気象現象に関する諸要素を記載する。

```
〔観測実況形式の場合〕
  <Property>
   <Type>気象現象の実況</Type>
   <EventPart>
     <Sentence>線状降水帯発生</Sentence>
     <Event type="線状降水帯" refID="1">
       <EventName>線状降水帯発生</EventName>
     </Event>
   </EventPart>
  </Property>

〔予想形式の場合〕
  <Property>
   <Type>潮位の予想</Type>
    <TidalLevelPart>
       （略）
    </TIdalLevelPart>
    <EventPart>
     <Base>
      <Event type="高潮" refID="1">
       <Sentence>７日夕方から夜のはじめごろにかけて警戒又は注意</Sentence>
       <EventName>警戒・注意</EventName>
       <Time>2023-09-07T15:00:00+09:00</Time>
       <Duration>PT6H</Duration>
      </Event>
      <Event type="高潮" refID="2">
       <Sentence>８日夕方から夜のはじめごろにかけて警戒又は注意</Sentence>
       <EventName>警戒・注意</EventName>
       <Time>2023-09-08T15:00:00+09:00</Time>
       <Duration>PT6H</Duration>
      </Event>
     </Base>
    </EventPart>
  </Property>
```

［解説］１　特定の気象現象について、事象（Event）を記載する。属性 type は当該事象の分類に用いるものとし、“高潮”、“線状降水帯”等を記載する。複数の属性 type の値を出現させる場合は、それぞれ個別の TimeSeriesInfo 部で記載する。時刻定義セットにおける参照番号を属性 refID に記載する。

２　事象には、必要に応じて事象の名称（EventName）、クラス・レベル（EventClass）と事象の発生時刻

（Time)、事象の期間（Duration）のいずれか又は全てを記載する。

３　文章表現（Sentence）は、観測実況形式の場合に、EventPart 部を文章で記載する。予想形式の場合は、個々の Event 部を文章で記載する。

４　地域を分けて事象を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と事象（Event）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

５　観測実況・予想の内容（Item）下の地域・地点を示す要素としては、地域（Area）をとる。詳細は３－１－２－２－２　Area 部を参照。

３－１－２－２－１－１－１３　PossibilityRankOfWarningPart 部

警報級の可能性について諸要素を記載する。

```
〔予想形式の場合〕
<Property>
 <Type>大雨の警報級の可能性</Type>
  <PossibilityRankOfWarningPart>
   <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="1" type="大雨の警報級の可能性" condition="値なし"/>
   <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="2" type="大雨の警報級の可能性" description="可能性［中］">中
</jmx_eb:PossibilityRankOfWarning>
   <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="3" type="大雨の警報級の可能性" description="可能性［中］">中
</jmx_eb:PossibilityRankOfWarning>
  </PossibilityRankOfWarningPart>
 <Text>中予では、２２日までの期間内に、大雨警報を発表する可能性がある。</Text>
</Property>
```

［解説］１　警報級の可能性(PossibilityRankOfWarning)の属性 type は種類を表し、“大雨の警報級の可能性”、“土砂災害の警報級の可能性”、“雪の警報級の可能性”、“風（風雪）の警報級の可能性”、“波の警報級の可能性”、“潮位の警報級の可能性”等を記載する。時刻定義セットにおける参照番号を属性 refID に記載する。属性 description に警報級の可能性の文字列表現を記載する。

２　テキスト（Text）は、PossibilityRankOfWarningPart 部を文章で記載する。省略する場合もある。

３　予想形式の場合で予想の内容（Item）下の地域・地点を示す要素としては、地域（Area）をとる。詳細は３－１－２－２－２　Area 部を参照。

３－１－２－２－１－１－１４　SignificancyPart 部

危険度について諸要素を記載する。

```
〔予想形式の場合〕
<Property>
  <Type>土砂災害危険度</Type>
  <SignificancyPart>
    <Base>
      <Significancy refID="1" type="土砂災害危険度">
        <Sentence>１３日昼過ぎ　注意報級</Sentence>
        <Name>注意報級</Name>
        <Code>10</Code>
      </Significancy>
      <Significancy refID="2" type="土砂災害危険度">
        <Sentence>１３日夕方　注意報級未満</Sentence>
        <Name>注意報級未満</Name>
        <Code>00</Code>
      </Significancy>
    </Base>
  </SignificancyPart>
</Property>
```

［解説］１　危険度（Significancy）の属性 type は種類を表し、“土砂災害危険度”、“大雨危険度”、“雪危険度”、“風危険度”、“波危険度”、“高潮危険度”等を記載する。時刻定義セットにおける参照番号を属性 refID に記載する。属性 description に警報級の可能性の文字列表現を記載する。

２　文章表現（Sentence）は、個々の Significancy 部を文章で記載する。

３　名称（Name）とコード（Code）については、別表５を参照。

４　地域を分けて事象を記載する場合には、Base/Local 以下に、地域名（AreaName）と事象（Event）を記載する。Local は記載する地域の数だけ繰り返すが、一部の地域を記載しない場合がある。

５　予想形式の場合で予想の内容（Item）下の地域・地点を示す要素としては、地域（Area）をとる。詳細は３－１－２－２－２　Area 部を参照。

３－１－２－２－２　Area 部

Kind 部で表示する内容の対象となる細分区の名称(Name)、コード(Code)を示す。

```
  〔観測実況形式の場合〕
<Area codeType="気象・地震・火山情報／市町村等">
  <Name>三宅村</Name>
  <Code>1338100</Code>
  <SubCity>三宅村神着</SubCity>
  <Status>付近</Status>
</Area>

  〔予想形式の場合〕
<Area codeType="気象情報／府県予報区・細分区域等">
  <Name>西部山地</Name>
  <Code>140020</Code>
  <CodeList>140021 140022 140023 140024</CodeList>
</Area>
```

［解説］１　Area は１回だけ出現する。対象となる地域・地点として、Area 部と Station 部は排他的に利用する。どちらをとるかは気象要素による。別表４参照。

２　観測実況形式の場合、Code に用いるコード種別名は“気象・地震・火山情報／市町村等”又は“気象情報／府県予報区・細分区域等”とし、Name は市町村等又は府県予報区・細分区域等の名称とする。“気象情報／府県予報区・細分区域等”とした場合のとりうる地域定義は別表３を参照。市町村等又は府県予報区・細分区域等の名称と対応するコードは、code.AreaInformationCity（表 1.5.3.2、詳細は別途提示）。市町村等（二次細分区）をさらに分割した地域を示す場合に細分した領域（SubCity）に当該地域名を記載することがある。気象要素の対象となる領域の状況に応じて、状況（Status）に“付近”をとることがある。

３　予想形式の場合は、以下のとおりとする。

３－１　地域名（Name）は気象解説情報用の地域名称として利用し、コード化、固定化しない。具体的に示している地域の地理的情報は以下の Code、CodeList により都度設定される。

３－２　地域名（Name）が示す地域が、別表３の「予想形式で地域の Code 値としてとりうる地域定義」としている地域定義の細分区に一致する場合、当該細分区等の地域コード値を Code に入れる。この場合、気象要素側で地域を分けた表現（Local/AreaName による表現）としている場合を含む。一致するものが無い場合は Code を要素ごと省略する。

３－３　地域名（Name）が示す地域が、別表３の「予想形式で地域の CodeList 値としてとりうる地域定義」としている地域定義の細分区の組み合わせとなるよう、CodeList に当該細分区等の全ての地域コードを list 型（空白文字区切り）で列記する。ここで CodeList に列記する細分区等は、地域名（Name）の対象となる領域が内包されるよう（CodeList の領域が地域名の領域より大きい）に記載する。

３－４　同一情報内で、同一 CodeList 値であっても気象要素側で地域を分けた表現（Local/AreaName による表現）としている場合は、別の地域名（Name）となる。同一 Code 値についても同様。

３－１－２－２－３　Station 部

Kind 部で表示する内容の対象となる観測所等地点の名称(Name)、コード(Code)を示す。

```
  〔観測実況形式の場合〕
<Station>
  <Name>三宅島</Name>
  <Code type="アメダス地点番号">44226</Code>
  <Location>東京都</Location>
</Station>
```

［解説］１　Station は１回だけ出現する。対象となる地域・地点として、Area 部と Station 部は排他的に利用する。どちらをとるかは気象要素による。別表４参照。

２　Code に用いるコード種別名は対象となる気象要素による。各気象要素の解説項を参照。

３　都道府県名を存在域（Location）に記載する。

第２章　気象解説情報形式の運用解説

１　気象防災速報の構造と観測データ形式

気象防災速報は、短い文章により情報を適切かつ効果的に伝えるため、気象解説情報形式としてもデータ構造を単純にするものとして以下の構造とする。

Head 部：

・Headline/Text　　見出し文として情報内で唯一の文章により記述

・Headline/Information[@type="情報タグ"]　　キーワードにより当該気象防災速報の種別と地域を示す

Body 部：

・MeteorologicalInfos　　見出し文に係る内容や根拠等を機械処理用に観測データ形式として記述する

情報タグは、別表２のキーワードを用いて気象防災速報の種別を示す。例えば、記録的短時間大雨情報の気象防災速報は、「記録雨」を記述する。また、同地域情報により、対象となる地域を記載する。

Body 部については、見出し文以外に表示上必須となる情報は含まず、本情報を発表するにあたっての根拠や見出し文記載事項の具体的な観測内容等について、観測値や解析値を示す。このため、当該気象要素の文章化は想定してなく、観測データ形式として、文章による補足情報を省略して観測・解析値等を提示し、図式化表示や通知、選択機能強化等機械処理に活用することを想定している。

２　気象解説情報の基本構造

気象解説情報について、文章化・可視化する際には基本的に電文を最初から順に変換していくことにより、作成者側の意図する文章化・可視化ができるものとする。ただし、この方法を指示するものではなく、利用者側で効果的な表示等を行うことが可能であり、あくまで変換方法の一例として示すものである。

例として、以下のような気象解説情報を考える。

```
〔従前の文章形式のイメージ〕
[気象概況]                                                    （※１）
      :
[雨の実況]                                                    （※２）
      :
[雨の予想]                                                    （※３）
      :
[風の予想]                                                    （※４）
      :
[防災事項]                                                    （※５）
      :
[補足事項]                                                    （※６）
      :
[お知らせ]                                                    （※７）
      :
```

これを気象解説情報形式とすると次の通りとなる。

```
<MeteorologicalInfos type="概況">
  <MeteorologicalInfo>
        :
    <Property>
      <Type>気象概況</Type>                                    （※１）
      <Text type="本文">　（略）　</Text>
    </Property>
        :
<MeteorologicalInfos type="観測実況">
  <TimeSeriesInfo>
        :
    <Property>                                                （※２）
      <Type>雨の実況</Type>
          :
<MeteorologicalInfos type="予想">
  <TimeSeriesInfo>
        :
    <Property>                                                （※３）
      <Type>雨の予想</Type>
          :
  <TimeSeriesInfo>
    <Property>                                                （※４）
      <Type>風の予想</Type>
```

```
        :
<MeteorologicalInfos type="防災事項">
  <MeteorologicalInfo>
        :
    <Property>                                                          (※5)
      <Type>防災事項</Type>
      <Text type="本文">  (略)  </Text>
    </Property>
        :
<MeteorologicalInfos type="付加情報">
  <MeteorologicalInfo>
    <DateTime>・・・</DateTime>
    <Item>
     <Kind>
      <Property>                                                        (※6)
       <Type>補足事項</Type>
       <Text type="本文">  (略)  </Text>
      </Property>
     </Kind>
    </Item>
    <Item>
     <Kind>
      <Property>
       <Type>お知らせ</Type>                                            (※7)
       <Text type="本文">  (略)  </Text>
      </Property>
        :
```

3　観測実況形式と予想形式の基本構造

観測実況形式と予想形式はいずれも時間の扱いの差として、単体での時間（MeteorologicalInfo 部）並びに期間又は時系列（TimeSeriesInfo 部）の構造により観測実況値又は予想値を提供する。

観測実況形式と予想形式においては、次のような構造で提供する。

（以下、TimeSeriesInfo 部を「T 部」、MeteorologicalInfo 部を「M 部」という。）

TimeDefines 部：　観測実況値又は予想値が期間又は時系列をとる際の時刻定義セット
（M 部をとる際は定義されないが以下の構造・運用は同じ）

Item 部[1]：(最初)　文章形式での解説部

- ・Type　気象要素の種類。同一 T 部又は M 部の中で、気象要素に併せて同じとする
- ・Text[@type="解説"]　T 部・M 部で共通となる解説文章。あれば解説として利用者提供することが望ましい
- ・Text[@type="時系列解説"]　T 部において、時間と次項の気象要素の文章を refID 毎に記載。独自の時間表現と気象要素の説明を付けないのであれば、原則として本要素を出力することにより、時刻定義セットと次項の気象要素の文章を利用しなくて良い。M 部では本要素がない。
- ・Text[@type="気象要素"]　気象要素に係る文章を記載。独自の時間表現を用意する場合の気象要素の説明に利用できる

Item 部[2..]：　気象要素と対象地域・地点（対象地域・地点数だけ繰り返す）

- ・Type　気象要素の種類。同一 T 部又は M 部の中で、気象要素に併せて同じとする
- ・〇〇Part 部　各気象要素部の解説を参照。原則として、各気象要素の Sentence や属性 description により文章化される
  - ・Base/Local/AreaName　対象となる地域の細分区（Area/CodeList）の全域でない場合、地域を分割するために分割名称を AreaName に与え、その値を Local 以下に記載する。詳細は本章の地域指定の解説を参照
- ・Area　対象となる地域について、気象解説情報用名称（Name）と同地域を示す細分区コード（CodeList）において定義する。詳細は本章の地域指定の解説を参照
- ・Station　気象要素が地点に対する場合に地点情報を記載する。利用する地点コードについては各気象要素部の解説を参照。観測所名称については都道府県間で一意に定まらない場合があることから、都道府県名を存在域(Location)に記載する。Area と Station は排他する

Item 部[-1]：(最後)　文章形式での補足部

- ・Type　気象要素の種類。同一 T 部又は M 部の中で、気象要素に併せて同じとする
- ・Text[@type="補足"]　T 部・M 部で共通となる補足文章。あれば補足として利用者提供することが望

ましい

・Text[@type="時系列補足"]　　T部において、個々の時刻定義セットに紐づく補足がある場合に当該補足文章をrefID毎に記載。M部では本要素がない。

例として、以下のような実況値の提示を考える。

〔従前の文章形式のイメージ〕
［雨の実況］　（※１）
降り始め（２０日１８時）から２３日１６時までの降水量（アメダスによる速報値）　（※２）
　輪島　　５０８．０ミリ　（※３）
　（略）
輪島、珠洲では、降り始めからの総降水量が９月の月降水量の平年値の２倍以上の記録的な大雨となっています。（※４）

これを観測実況形式とすると次の通りとなる。

〔観測実況形式の場合〕

```
<TimeSeriesInfo>
 <TimeDefines>
  <TimeDefine timeId="1">
   <DateTime>2024-09-20T18:00:00+09:00</DateTime>
   <Duration>P2DT22H</Duration>
   <Name>２０日１８時から２３日１６時まで</Name>
  </TimeDefine>
 </TimeDefines>
 <Item>
  <Kind>
   <Property>
    <Type>雨の実況</Type>
    <Text type="解説"/>
    <Text type="時系列解説" refID="1">降り始め（２０日１８時）から２３日１６時までの降水量（アメダスによる速報値）
</Text>
    <Text type="気象要素">降水量（アメダスによる速報値）</Text>
   </Property>
  </Kind>
 </Item>
 <Item>
  <Kind>
   <Property>
    <Type>雨の実況</Type>
    <PrecipitationPart>
     <Sentence>５０８．０ミリ</Sentence>
     <jmx_eb:Precipitation type="降水量" unit="ミリ" description="５０８．０ミリ"
     refID="1">508.0</jmx_eb:Precipitation>
     </PrecipitationPart>
   </Property>
  </Kind>
  <Station>
   <Name>輪島</Name>
   <Code type="アメダス地点番号">56052</Code>
   <Location>石川県</Location>
  </Station>
 </Item>
    （略）
 <Item>
  <Kind>
   <Property>
    <Type>雨の実況</Type>
    <Text type="時系列補足" refID="1"></text>
   <Text type="補足">輪島、珠洲では、降り始めからの総降水量が９月の月降水量の平年値の２倍以上の記録的な大雨となっています。</text>
   </Property>
  </Kind>
 </Item>
</TimeSeriesInfo>
```

時刻定義セット
※２や※３に係る時刻定義及び同汎用的文章

←文章の中見出しとして利用
※１にあたる

↑時間と気象要素の解説
※２にあたる

↑気象要素の解説
時刻定義セットと併せて独自の気象要素の解説を作成する際に用いる

気象要素値
単位等を含めて文章で表記する場合はSentence要素や属性descriptionを活用する
※３にあたる

←対象地点
※３にあたる

↑気象要素の補足
気象要素に対して補足の文章
※４にあたる

←１連の気象要素で１つのT部又はM部とする

4　気象要素に係る地域の運用

気象解説情報において、気象要素で表現（原則として予想形式）する地域については、気象庁が定めた一次細分区域名、市町村等をまとめた地域名等とは別に、慣例的・便宜的にわかりやすい名称の地域を用いている場合がある。

また、各細分区やこれら地域に際して、さらに気候的理由等により「山地」「内海」等の「地域を分けた地域」（以下「再分割区域」という。）を付記して警報・注意報の発表や量的予想値の提供等を行っている。これらの地域定義を気象解説情報形式でも利用するため、以下を基本的な運用指針とする。

・Item 要素下の Area 要素の地域名（Name）については、一次細分区域名等の正式な地域名称のほか、上記のわかりやすい地域名称の利用や再分割区域名称の付記を行い、対象となる地域が名称としてそのまま伝わるものとして記載する（以下、本地域名称が示す地域を「解説情報用地域」という。）。

・解説情報用地域名における地理情報的な定義を行うため、Area 要素の CodeList 要素に対象となる細分区域のコードを列記（xs:list 型）する。対象となる区域コードは情報の種別により別表３のとおりとなる。

・CodeList 要素に記載される地域は、当該地域に含まれる地域として示すものとする。例えば、A 地域が a 市、b 市、c 市から成り立つ場合、a 市と b 市が対象となる解説情報用地域であっても CodeList 要素値には A 地域のコードを記載する。

・上記のわかりやすい地域そのものの差異や再分割区域の差異により、解説情報用地域が異なる地域同士でも CodeList 要素値が同じとなる場合がある。これらを区別するため、原則として気象要素は Base/Local 構造に依る地域を分けた記載とする。解説情報用地域が再分割区域を設定せずに完全に CodeList 要素値の地域全域と一致する場合には、Base/Local 構造をとらない場合がある。

・前項の Base/Local 構造をとる場合、Local 要素下の AreaName は便宜的な区別用の名称として設定され、警報・注意報等で用いる「地域を分割した地域」の意味を持たない。このため同 AreaName 値を表示等に用いてはいけない。（後述）

・解説情報用地域が、別表３に示す細分区の地域定義に完全に一致する場合、Area 要素の Code 要素に同地域コードを記載する。なお、再分割区域名の付記があった場合で、当該再分割区域を全域に置き換えた場合（再分割区域を指定しない場合）に地域定義に完全一致する場合も Code 要素に同地域コードを記載する。一致しない場合は、Code 要素ごと記載しない。ただし、海に関連する要素等発表がありえない地域については、これを暗黙の判定除外地域とみなして判断する。例えば、ある県全域の陸上と海上について、内陸には海上は無いが県全域としてみると、海上として存在し得る地域は全域を含むので、これは合致していると判断する。

以下に例を示す。

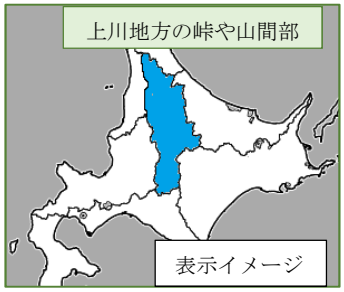
〔例１：再分割区域を設定せず慣習的に使われている包括的な地域名を利用〕

```
<Area>
 <Name>多摩地域</Area>
 <CodeList>130013 130014 130015</CodeList>
<Area>
```

［解説］１　地域概念としては、多摩西部、多摩北部、多摩南部をまとめた地域。このため、CodeList 値としては同３細分区（市町村等をまとめた地域）の地域コードを記載。１次細分区とは合致しないので Code 要素は省略。

〔例２：再分割区域を付記した一次細分区域名を利用〕

```
<SnowfallDepthPart>
 <Base>
  <Local>
   <AreaName>峠や山間部</AreaName>
   <jmx_eb:SnowfallDepth type="６時間の降雪深さ" unit="cm" description="４０センチ"  refID="1">40</jmx_eb:SnowfallDepth>
  <Local>
 </Base>
</SnowfallDepthPart>
     （略）
<Area codeType="気象情報／府県予報区・細分区域等">
 <Name>上川地方の峠や山間部</Area>
 <Code>012010</Code>
 <CodeList>012011 012012 012013</CodeList>
<Area>
```



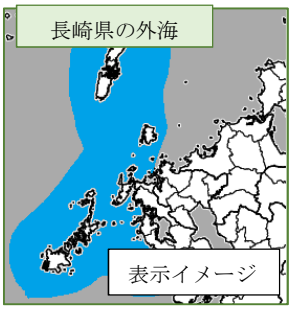
［解説］１　地域概念として、一次細分区「上川地方」と、同地域の一部を分割した地域（再分割区域）として「峠や山間部」を示す。一次細分区として「上川地方」に一致していることから、Area の属性 codeType="気象情報／府県予報区・細分区域等"として Code 要素を“上川地方”のコード値“012010”を記載、CodeList 値は上川地方に属する全ての市町村等をまとめた地域として、“012011 012012 01201”を記載している。

２　再分割区域として「峠や山間部」としている。このため SnowfallDepth 要素下の Base/Local 構造の AreaName も“峠や山間部”としている。ただし、AreaName の“峠や山間部”の部分が表記した場合に適切な意味をもつとは限らない。

３　例えば、同じ「上川地方」に「峠や山間部」に対する地域の概念として「平地」があるとして「上川地方の平地」とした場合、Area 部としての地域定義は Code 値、CodeList 値とも同じとなり区別できなくなるが、Local 要素下の AreaName 値は“平地”を設定することとなり、「峠や山間部」と地域や予想値を分けて扱うことができる。なお、このように「平地」を設ける場合でも、Area/Name が別の名称となるため、Item 部ごと分けて表記する。

〔例３：再分割区域がすべて適用できるわけではない場合〕

```
<WaveHeightPart>
 <Base>
  <Local>
   <AreaName>外海</AreaName>
   <jmx_eb:WaveHeight description="１．５メートル" refID="1" type="波高" unit="m">1.5</jmx_eb:WaveHeight>
  </Local>
 </Base>
</WaveHeightPart>
      (略)
<Area>
 <Name>長崎県の外海</Area>
 <CodeList>420011 420012 420013 420014 420021 420022 420031 420032
420033 420041 420042</CodeList>
<Area>
```

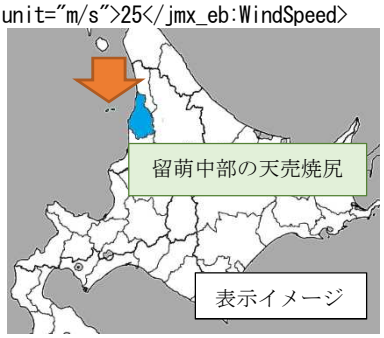


［解説］１　地域概念として「外海」は、（長崎県の）南部と佐世保・東彼地区にだけ定義されているが、壱岐・対馬や五島、平戸・松浦地区の「海上」を含めている。このため、Code 要素として一致する地域はないため要素ごと省略。CodeList 値には前述の市町村等をまとめた地域の地域コードを列記。

２　再分割区域としては、「外海」「海上」の両方が対象となるが、より特異性の高い「外海」を採用するものとして、AreaName 値に“外海”を設定している。このため、再分割区域として「外海」が正しいわけではなく、あくまで「大浦湾」や「有明海」に対して適切であろうキーワードを設定しているに過ぎない。このため、AreaName を表示等に用いることは適切ではなく、あくまで処理の判別用途に用いるのみとする。

〔例４：解説情報用地域名に二次細分区名を直接記載〕

```
<WindSpeedPart>
 <Base>
  <Local>
   <AreaName>天売焼尻</AreaName>
   <jmx_eb:WindSpeed description="１５メートル" refID="1" type="最大風速" unit="m/s">15</jmx_eb:WindSpeed>
   <jmx_eb:WindSpeed description="２５メートル" refID="1" type="最大瞬間風速" unit="m/s">25</jmx_eb:WindSpeed>
  </Local>
 </Base>
</WindSpeedPart>
      (略)
<Area>
 <Name>留萌中部の天売焼尻</Area>
 <CodeList>012022</CodeList>
<Area>
```



［解説］１　地域概念として対象は二次細分区「天売焼尻」で、市町村等をまとめた地域「留萌中部」の一部地域となる。このため、Code 要素として一致する地域はないため要素ごと省略。CodeList 値には前述の市町村等をまとめた地域の地域コードとして“012022”を記載。

２　再分割区域としては、二次細分区が該当し、厳密には再分割区域ではないものの、全体として市町村等をまとめた地域の一部分を示す用語としては二次細分区名が妥当であることから、AreaName 値に“天売焼尻”を設定している。AreaName 値が一般用語だけではなく、このような固有名詞等となる場合もある。

３　例えば、本地域情報から図形化して処理させると上記表示イメージ図のような表示となるが、実際には矢印の先にある島が対象となっている。